

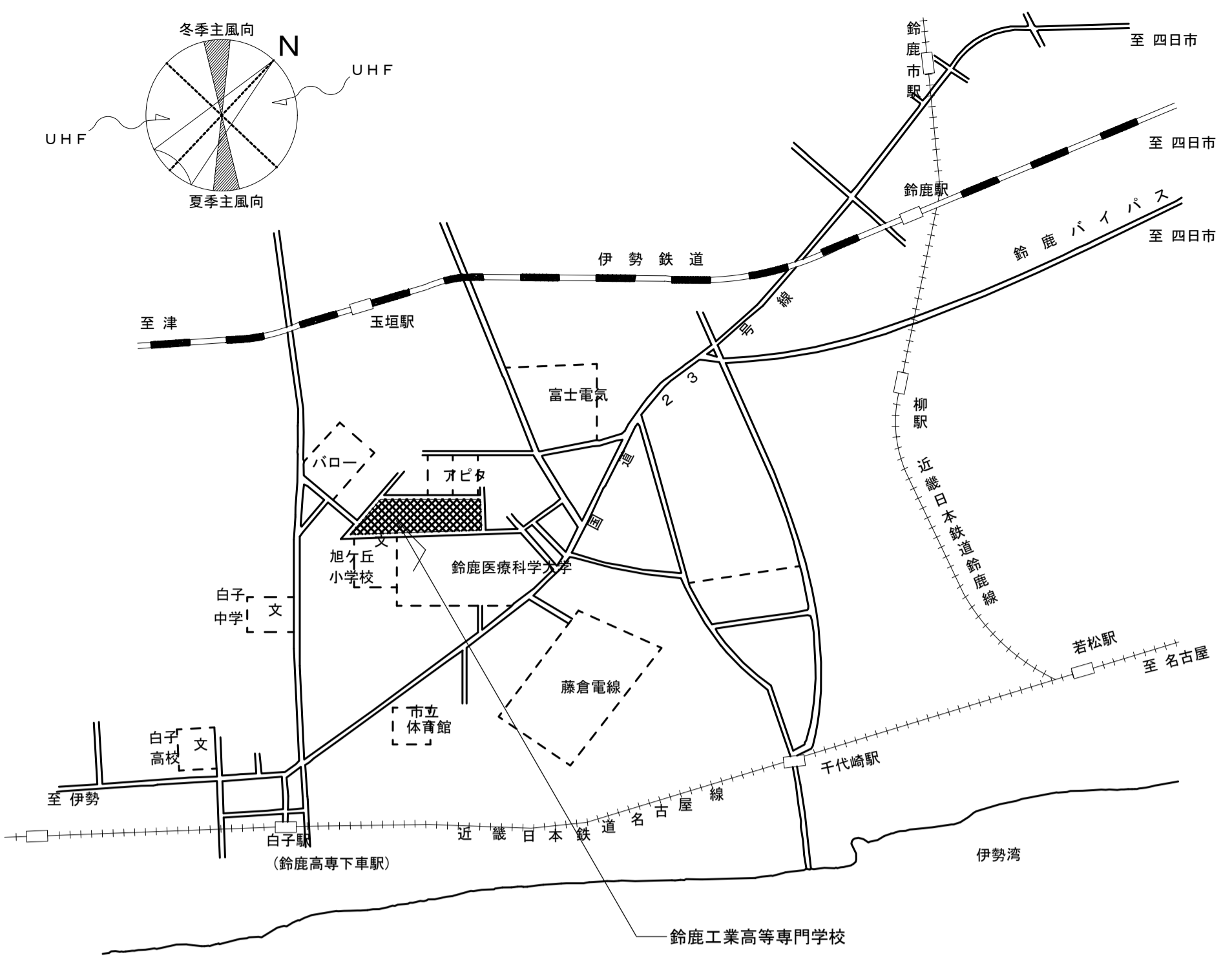
鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事

平成27年 7月

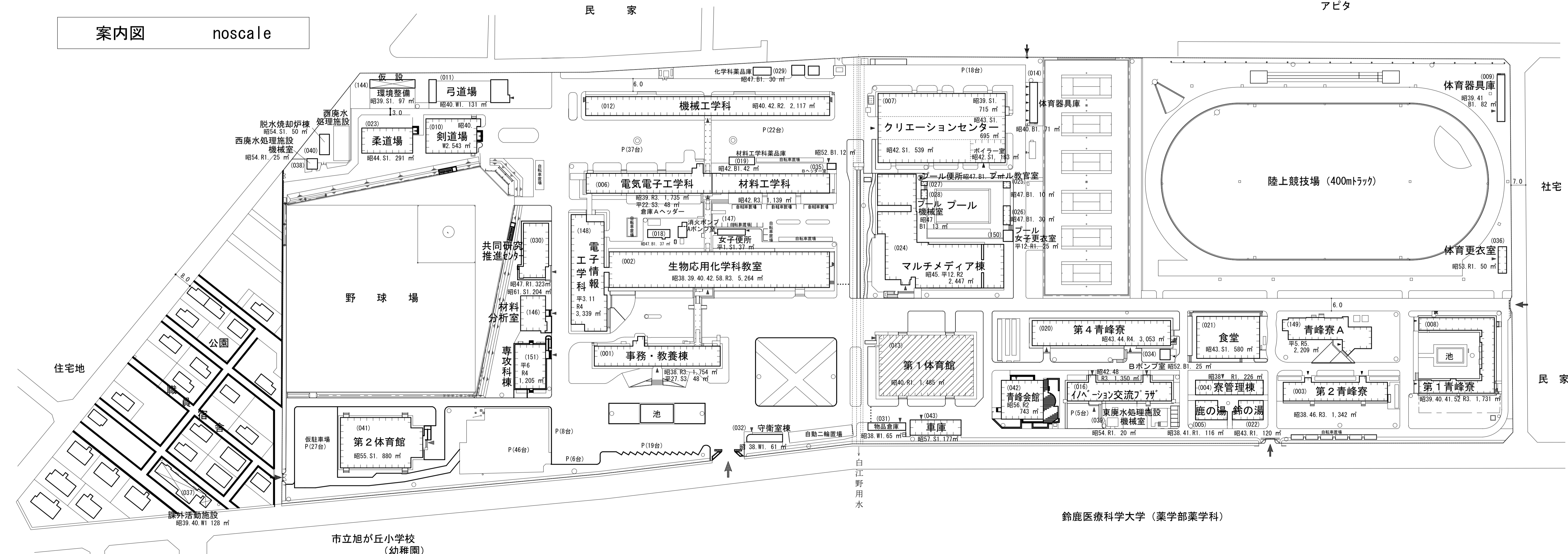
建築		
図面番号	図面名称	縮尺
01	共-01 表紙、図面リスト	—
02	共-02 案内図、配置図	1/1,000
03	特-01 建築改修工事特記仕様書(1)	—
04	特-02 建築改修工事特記仕様書(2)	—
05	特-03 建築改修工事特記仕様書(3)	—
06	特-04 建築改修工事特記仕様書(4)	—
07	A-01 1階平面図(改修前・後)	1/100
08	A-02 2階平面図(改修前)	1/100
09	A-03 2階平面図(改修後)	1/100
10	A-04 断面詳細図(改修前・後)	1/50
11	A-05 展開図(改修前)	1/100
12	A-06 展開図(改修後)	1/100
13	A-07 【参考図】バスケットゴール詳細図、バスケットゴール取付伏図	1/50, 200
14	S-01 改修工事標準図	—
15	S-02 バスケットゴール取付用受材詳細図	1/10, 200

記 事	鈴鹿工業高専専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担 当	業務名 鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務	検 図	担 当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年7月	01 / 14
							株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣)第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
										表紙・図面リスト		共-01

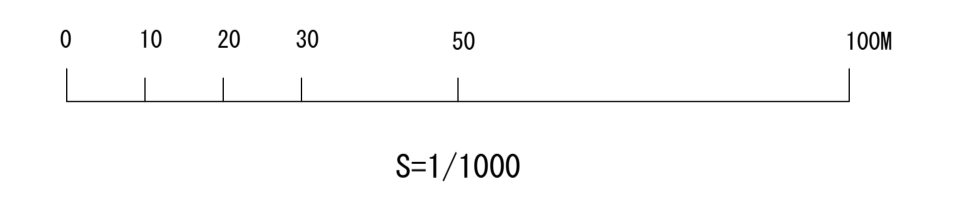
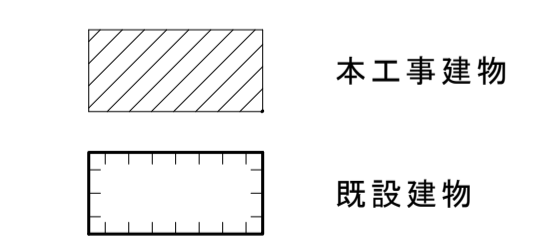
※A3版の場合は50%縮尺とする



案内図 noscale



配置図 S=1/1000



S=1/1000

記事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検図	担当	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年6月	02/15
						株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
									案内図・配置図	1/1,000	共-02

※A3版の場合は50%縮尺とする

<5.2.3> 材料
 <5.3.3> 材料
 <5.3.2> 性能及び構造
 <5.3.4> 形状及び仕上げ
 <5.4.2> 性能及び構造
 <5.6.3> 材料
 <5.6.4> 形状及び仕上げ
 <5.6.5> 工法
 <5.7.2> 材質、形状及び寸法
 <5.7.4> 鍵
 <5.13.2> 材料
 <5.13.3> ガラス溝の寸法、形状等
 <5.13.5> ガラスブロック積み

防虫網
 ・合成樹脂製
 ・ガラス繊維入り合成樹脂製
 ・ステンレス(SUS316)製
 線径(mm) ・0.25以上
 網目(メッシュ) ・16~18

外部に面する樹脂製建具の性能等級

性能等級	・A種	・B種	・C種
耐風圧性	・S-4	・S-5	・S-6
気密性	・A-4		
水密性	・W-4	・W-5	
枠の見込み寸法(mm)	・60	・70	・80

 外部に面する樹脂製建具の遮音性能等級

種別	・T-A種	・T-B種
遮音性	・S-4	・S-5

 外部に面する樹脂製建具の断熱性能等級

種別	・H-A種	・H-B種
遮熱性	・H-4	・H-5

 外部に面する鋼製建具の耐風圧性

ステンレス鋼板
 ・SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1 ・SUS430

表面仕上げ
 ・HL仕上げ

曲げ加工
 ・普通曲げ ・角出し曲げ(補強あり)

建具用金物
 スイングドア、スイングサッシの金物の種類 バックセット(mm) 製作所
 ・モノロック
 ・本締り付モノロック
 ・シリンダー箱錠
 (レバーハンドルを含む)
 ・シリンダ本締り錠
 ・空錠
 ・押棒、押板

マスターキー
 ・作製する ・作製しない
 グランドマスター
 ・作製する ・作製しない
 マスターキーは既存グランドマスターに合わせることを。

強化ガラス
 材料板ガラスの種類 材料板ガラス
 フロート強化ガラス ・フロートガラス ・熱線吸収フロートガラス
 ・磨き板ガラス ・熱線吸収磨き板ガラス
 板強化ガラス
 熱線吸収板ガラス
 材料板ガラスの種類 厚さ(mm) 色調
 ・熱線吸収フロート板ガラス
 ・ブルー ・グレー
 ・ブロンズ ・グリーン
 熱線反射板ガラス
 種類 材料板ガラスの種類 日射熱遮へい率の区分 反射皮膜の使い方 色調 映像調整
 ・熱線反射ガラス ・加工なし
 ・1種 ・内面 ・ブルー ・行う
 ・2種 ・グレー
 ・3種 ・外面 ・ブロンズ ・シルバー
 ・高性能熱線反射ガラス
 素材が強化又は倍強度ガラスの場合の製作所

ガラス溝の寸法、形状等

種類	ガラス厚(mm)	面クリアランス	エッジクリアランス	掛り代
・強化ガラス				
・倍強度ガラス				

 ガラスブロック

寸法及び厚さ(mm)	表面形状	色調	化粧目地の色	シーリングの種類
		・クリア ・乳白		

防火シャッター
 工法
 音声発生装置は、シャッターが降下を開始すると同時にスイッチが入り、閉鎖して停止するまで、継続して危険を知らせる音声を発するものとする。なお、この装置は、防火シャッターに接近して、柱、壁、天井等に設置する。
 注意灯は、シャッターが降下を開始すると同時にスイッチが入り、閉鎖して停止するまで、継続して注意灯を点灯するものとする。また、点灯方式は点滅方式または回転方式とする。
 シャッターへの危険表示は、シャッター両面の下部部分(全体の高さの1/2以下の位置)に、降下中の危険を知らせる文字、イラスト等を目立つように塗料による描き込み、またはシール等の貼り付けを行う。

6章 内装改修工事

合成樹脂塗床材の除去
 ・機械的除去工法
 ・目荒し工法

日本農林規格品
 ・用いる ・用いない

製材

施工箇所				
樹種名				
寸法				
材面の品質				
含水率				
代用樹種の使用	・禁止する	・禁止しない		

 造作用集材

施工箇所				
樹種名				
寸法				
見付け材面の品質				
含水率				

 造作用単板積層材

施工箇所				
寸法				
表面処理				
防虫処理				

 その他のボード

種類	規格、区分等	厚さ(mm)
・MDF		・3 ・7 ・9 ・12 ・15 ・18 ・21 ・24 ・30
パーティクルボード	・単板張りパーティクルボード ・無研磨板 ・研磨板 ・化粧パーティクルボード ・単板オーバーレイ	・10 ・12 ・15 ・18 ・20 ・30 ・35 ・40 ・10(難燃) ・12(難燃) ・15(難燃) ・18(難燃) ・20(難燃) ・25(難燃) ・30(難燃) ・35(難燃) ・40(難燃)

 防腐処理 ・行う 適用範囲
 防蟻処理 ・行う 適用範囲
 防蟻処理は、非有機リン系とする。
 防腐・防蟻処理の方法
 工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。
 ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて防腐・防蟻を塗布することとする。
 防虫処理 ・行う 適用範囲
 下記以外のビニル床シートは、種類FS、柄は無地、厚さ2.0mmとする。

種類	性能	厚さ(mm)	柄	施工箇所

 下記以外のビニル床タイルは、厚さ2.0mmとする。

種類	厚さ(mm)	寸法(mm)	施工箇所
・ホモニジラスビニル床タイル ・コンポジションビニル床タイル(軟質)			

 ビニル床シート及びビニル床タイル用接着剤は、ホルムアルデヒド不検出のもので、有機溶剤の含有の少ないものとする。
 誘導用、注意喚起用床材 視覚障害者用タイル

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
・塩化ビニル系	・300×300	・20
・レジンコンクリート系	・300×300	・30

 ゴム床タイル

寸法(mm)	厚さ(mm)	色柄	製造所・製品名

防虫処理
 <6.9.2> 材料

<6.10.2> 材料

<6.11.2> 材料

<6.12.2> 材料

<20.2.3> 可動開仕切

<20.2.4> 移動開仕切

<6.9.2> 材料
 織じゅうたん

種類	バイル形状	帯電性	製造所・製品名
・A種 ・B種 ・C種	・カットバイル ・ループバイル ・カット、ループ併用	・人体帯電圧 3KV以下	

 タフトドカーベット

バイル形状	バイル長さ(mm)	帯電性	工法	製造所・製品名
・カットバイル ・ループバイル ・カット、ループ併用		・人体帯電圧 3KV以下	・全面接着工法 ・グリッパー工法	

 抗菌加工の有無 ・有 ・無
 ニードルパンチカーベット

厚さ(mm)	帯電性	製造所・製品名
	・人体帯電圧 3KV以下	

 抗菌加工の有無 ・有 ・無
 タイルカーベット

種類	バイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	電気抵抗(Ω)	製造所・製品名
・種 ・種	・カットバイル ・ループバイル	・500×500	・6.5 ・7.5 ・7.5	・適用しない	

 合成樹脂塗床材

種類	工法・仕上げの種類	
・厚膜型塗床材	・弾性ウレタン ・樹脂系 ・エポキシ ・樹脂系	・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ ・薄膜流し展べ工法 (・平滑・防滑) ・厚保護膜流し展べ工法 (・平滑・防滑) ・樹脂モルタル工法 (・平滑・防滑)
・薄膜型塗床材		

 フローリングの種別

単層フローリング	樹種	厚さ(mm)	大きさ(mm)	工法
・フローリングボード	・なら			・モルタル埋込工法 ・根太張り工法 ・直張り工法 ・接着工法
・フローリングブロック	・なら	・15	・303×303	・接着工法
・モザイクカーペット				

 複合フローリング 樹種 種別 防湿処理 工法

・複合1種フローリング ・複合2種フローリング ・複合3種フローリング	・なら ・A種 ・B種 ・C種	・行う	・モルタル埋込工法 ・根太張り工法 ・直張り工法 ・接着工法
---	--------------------------	-----	---

 畳敷き

種類	A種 B種 C種 D種
D種の場合の畳床	KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N

 構造形式 表面材質 仕上げ 不燃材料の認定

・パネル式 ・スタッ式	・鋼板	・フミン樹脂塗料焼付け	・あり
----------------	-----	-------------	-----

 パネル圧接装置の操作方法 遮音性能 表面仕上げ

・機械駆動式 ・ハンドル回転式	・一般タイプ(36dB未満) ・遮音タイプ(36dB以上)	・焼付け塗装 ・壁紙張り
--------------------	----------------------------------	-----------------

<6.10.2> 材料

<6.11.2> 材料

<6.12.2> 材料

<20.2.3> 可動開仕切

<20.2.4> 移動開仕切

<6.13.2> 材料
 せっこうボード、その他ボード及び合板張り

名称	種類	規格、区別等	厚さ(mm)
・せっこうボード(GB-R)			・9.5(準不燃) ・12.5(不燃) ・9.5(準不燃) ・12.5(不燃) ・12.5(不燃) ・15.0(不燃)
・硬質せっこうボード(GB-R-H)			・9.5(不燃) ・12.5(不燃)
・ジーン割せっこうボード(GB-S)			・12.5(不燃) ・12.5(準不燃)
・せっこうラスボード(GB-L)			・9.5
・強化せっこうボード(GB-F)			・12.5(不燃)
・不燃積層せっこうボード(GB-NC)	規格外		・9.5(不燃) ・9.5(不燃) ・9.5(準不燃) ・9.5(準不燃)
・化粧せっこうボード(GB-D)	普通 特殊	・トラバーチン ・木目模様	・9.5(準不燃) ・12.5(不燃)
・ロックウール吸音ボード(RW-B)	1号		・25
・グラスウール吸音ボード(GW-B)	2号 32K		・25(ガラスクロス包)
・ロックウール化粧吸音板(DR)	内部用 軒天用	普通 立体模様	・9.0(不燃) ・12.0(不燃) ・9.0(不燃) ・12.0(不燃)

 繊維メッシュ

・0.8けい酸カルシウム板(0.8FK)			・6.0	・0.8
----------------------	--	--	------	------

 合板

特殊合板	・天然木化粧合板 ・特殊加工化粧合板	・なら ・しおじ ・メラミン化粧合板 ・ホリイ化粧合板	化粧単板 ・0.3未満 ・4.2
難燃合板			・4.0

 セメント系

・木セメント板 ・木片セメント板	・硬質木毛羽板 ・普通木毛羽板 ・硬質木毛羽板 ・普通木毛羽板	・15 ・20 ・25 ・30 ・12 ・15 ・18 ・21 ・30
---------------------	--	--

 ハードボード

・スタンダードボード ・テーパーボード	・未研磨板 ・研磨板 ・未研磨板 ・研磨板	・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
・内装用化粧ハードボード ・外装用化粧ハードボード		・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・5 ・7

 イソジンボード

・A級インシュレーションボード ・シージングボード	・素板 ・天井仕上げ材 ・内装仕上げ材 ・押入収納内装材	・9 ・12 ・15 ・18
------------------------------	---------------------------------------	-------------------

 MDF

・MDF		・3 ・7 ・9 ・12 ・15 ・18 ・21 ・24 ・30
パーティクルボード	・単板張りパーティクルボード ・無研磨板 ・研磨板 ・化粧パーティクルボード ・単板オーバーレイ	・10 ・12 ・15 ・18 ・20 ・30 ・35 ・40 ・10(難燃) ・12(難燃) ・15(難燃) ・18(難燃) ・20(難燃) ・25(難燃) ・30(難燃) ・35(難燃) ・40(難燃)

 壁紙張り

施工箇所	製造所・製品名	防火性能の級別
		・1級 ・2級 ・1級 ・2級

 壁紙及び接着剤は、ホルムアルデヒド放散量の少ないものとする。
 タイルの形状、寸法、きじの質及び工法等

施工箇所	形状・寸法(mm)	きじ	うけつけ役物	色	工法	製造所・製品名

 ※施工箇所の下線は、耐凍害性があるものを示す。
 試験張り ・行う ・行わない
 見本焼き ・行う ・行わない

<6.14.2> 材料

<6.16.3>
 <6.16.4> 陶磁器質タイル張り

記 事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検査	担当	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修の他工事	平成27年6月	05/15
						株式会社 緑企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
									建築改修工事特記仕様書(3)	—	特-03

※A3版の場合は50%縮尺とする

7章 塗装改修工事																												
<7.1.3> 材料	塗料は、ホルマリン不検出のものとし、有機溶剤の含有の少ないものとする。 防火材料の指定 ○屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・次の箇所は防火材料とする。 -----																											
8章 耐震改修工事																												
コンクリートの品質	<table border="1"> <thead> <tr> <th>摘要</th> <th>種類</th> <th colspan="3">普通コンクリート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適用箇所</td> <td>基礎(1F以下の部分)</td> <td>左記以外の部分</td> <td colspan="2">耐震壁</td> </tr> <tr> <td>設計基準強度(N/mm²)</td> <td>21</td> <td>21</td> <td colspan="2">21</td> </tr> <tr> <td>スランプ(cm)</td> <td>18</td> <td>18</td> <td colspan="2">18</td> </tr> <tr> <td>気乾単位容積質量(kg/m³)</td> <td></td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table>	摘要	種類	普通コンクリート			適用箇所	基礎(1F以下の部分)	左記以外の部分	耐震壁		設計基準強度(N/mm ²)	21	21	21		スランプ(cm)	18	18	18		気乾単位容積質量(kg/m ³)						
摘要	種類	普通コンクリート																										
適用箇所	基礎(1F以下の部分)	左記以外の部分	耐震壁																									
設計基準強度(N/mm ²)	21	21	21																									
スランプ(cm)	18	18	18																									
気乾単位容積質量(kg/m ³)																												
<8.1.5> 鉄骨製作工場	工場性能評価グレード _____ 以上の工場																											
<8.2.1> 鉄筋	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>径(mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SD295A</td> <td>D10 D13 D16</td> <td>壁・床</td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td>D19</td> <td>壁・床</td> </tr> <tr> <td>・SR235</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	径(mm)	適用箇所	・SD295A	D10 D13 D16	壁・床	・SD345	D19	壁・床	・SR235																	
種類の記号	径(mm)	適用箇所																										
・SD295A	D10 D13 D16	壁・床																										
・SD345	D19	壁・床																										
・SR235																												
<8.2.2> 溶接金網	<table border="1"> <thead> <tr> <th>編目の形状、寸法</th> <th>鉄線の径</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	編目の形状、寸法	鉄線の径																									
編目の形状、寸法	鉄線の径																											
<8.2.6> 型枠の材料	床型枠用鋼製デッキプレート 適用箇所 _____ 備考 _____ 製造所 _____																											
<8.2.8> 鋼材	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>材質</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・棒鋼</td> <td>SD259A・SD345</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○平鋼</td> <td>SN490C・SS400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○形鋼(H形)</td> <td>SS400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・形鋼(その他)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鋼板(中・厚)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鋼板(薄)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・軽量形鋼</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・角形鋼管</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	材質	備考	・棒鋼	SD259A・SD345		○平鋼	SN490C・SS400		○形鋼(H形)	SS400		・形鋼(その他)			・鋼板(中・厚)			・鋼板(薄)			・軽量形鋼			・角形鋼管		
種別	材質	備考																										
・棒鋼	SD259A・SD345																											
○平鋼	SN490C・SS400																											
○形鋼(H形)	SS400																											
・形鋼(その他)																												
・鋼板(中・厚)																												
・鋼板(薄)																												
・軽量形鋼																												
・角形鋼管																												
<8.3.4> 継手及び定着	継手方法等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手方法</th> <th>径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱、梁の主筋</td> <td>・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>○重ね継手</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 主筋又は耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ○40d ・45d 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ ○40d 柱に取り付けるはりの引張り鉄筋の定着長さ・40d ・45d 柱に取り付けるはりの引張り鉄筋以外鉄筋の定着長さ・-----	部位	継手方法	径(mm)	柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手		その他	○重ね継手																			
部位	継手方法	径(mm)																										
柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手																											
その他	○重ね継手																											
<8.3.8> ガス圧接	圧接完了後の試験 ・超音波探傷試験																											
<8.16.2> 耐火被覆材の種別及び性能	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> </tr> <tr> <td>・耐火材吹付け (・乾式工法 ・半乾式工法 ・半湿式工法 ・湿式工法)</td> </tr> <tr> <td>・耐火板張り工法</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所要性能</th> <th>構造区分</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	・ラス張りモルタル塗り	・耐火材吹付け (・乾式工法 ・半乾式工法 ・半湿式工法 ・湿式工法)	・耐火板張り工法	所要性能	構造区分	適用箇所																				
種別																												
・ラス張りモルタル塗り																												
・耐火材吹付け (・乾式工法 ・半乾式工法 ・半湿式工法 ・湿式工法)																												
・耐火板張り工法																												
所要性能	構造区分	適用箇所																										
<8.19.3> 既存部分の処理	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目荒し部位</th> <th>平均深さ(mm)</th> <th>打継ぎ面に対する目荒らし面積の割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>壁・床</td> <td>5</td> <td>75~100</td> </tr> </tbody> </table>	目荒し部位	平均深さ(mm)	打継ぎ面に対する目荒らし面積の割合(%)	壁・床	5	75~100																					
目荒し部位	平均深さ(mm)	打継ぎ面に対する目荒らし面積の割合(%)																										
壁・床	5	75~100																										
<8.19.8> コンクリートの打込み	○流込み工法 ・圧入工法																											
<8.21.5> 溶接金網巻き工法及び溶接フープ巻き工法	打込の工法の種類 ・流込み工法 ・圧入工法																											

9章 環境配慮改修工事																																										
<9.1.1> 一般事項	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">アスベスト含有建材の処理の工事</th> </tr> <tr> <th>工事種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・除去処理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・封じ込め処理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・囲い込み処理</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 施工調査 目視又は設計図書による施工調査は、次の事項について行い、調査結果をとりまとめ、図面等により記録し、監督職員に提出する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. アスベスト含有建材使用部位の確認 2. アスベスト含有建材の厚さ等の確認 3. アスベスト含有建材使用数量の確認 4. 施工範囲等の確認 分析によるアスベスト含有の調査 ・行う 調査対象室 _____ 調査対象建材 _____ 分析によるアスベスト含有の調査は、「改訂 既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針」(以下「センター指針」という。)の「3.3.3資料採取による現地調査」に基づき行う。 ただし、アスベスト含有の分析方法は、JIS A 1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。それ以外の分析方法とする場合は、監督職員と協議する。	アスベスト含有建材の処理の工事		工事種別	適用箇所	・除去処理		・封じ込め処理		・囲い込み処理																																
アスベスト含有建材の処理の工事																																										
工事種別	適用箇所																																									
・除去処理																																										
・封じ込め処理																																										
・囲い込み処理																																										
<9.1.2> アスベスト含有率測定	アスベスト粉じん濃度測定 処理作業室、処理作業室以外の室内又は室外、負圧・除じん装置の排出吹き出し口、敷地境界において、アスベスト粉じん濃度の測定を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. アスベスト粉じん濃度の測定場所、測定点及び測定時期は下表による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定時期</th> <th>測定名称</th> <th>測定場所</th> <th>測定点</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">処理作業前</td> <td>測定1</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点又は3点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>測定2</td> <td>処理作業室以外の室内又は室外</td> <td>計2点</td> <td>大気</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">処理作業中</td> <td>測定3</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点又は3点</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>測定4</td> <td>負圧・除じん装置の排出吹き出し口</td> <td>出口吹出し風速1m/sec以下の位置各2点</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">処理作業後(シト養生中)</td> <td>測定5</td> <td>処理作業室敷地境界</td> <td>4方向各1点(敷地境界)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>測定6</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">作業終了後シト撤去後1週間以内</td> <td>測定7</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点又は3点</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>測定8</td> <td>処理作業室以外の室内又は室外</td> <td>計2点</td> <td>大気</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> 2. アスベスト粉じん濃度の測定に当たっては、アスベスト粉じん濃度測定計画書を作成し監督職員に提出する。 3. 下記の内容に基づくアスベスト粉じん濃度測定結果報告書を作成し、監督職員に提出する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 工事名称 2) 測定結果 3) 測定時間 4) 測定位置(測定高さと共に図示する。) 5) 測定時の作業内容 6) サンプリング条件(ホリ径、吸引時間、吸引空気量) 7) マウンティング方法 8) 顕微鏡視野面積、計数視野数 9) 計数アスベスト繊維について 10) 測定時(各測定場所毎)の温度、湿度、風圧 11) その他必要な事項 アスベスト含有建材飛散防止処理施工計画書 施工調査の結果に基づき、アスベスト粉じんの飛散防止対策を盛り込んだアスベスト含有建材飛散防止処理施工計画書を「センター指針」の「5.3.2施工計画書の作成」に基づき作成する。	測定時期	測定名称	測定場所	測定点	備考	処理作業前	測定1	処理作業室内	各2点又は3点		測定2	処理作業室以外の室内又は室外	計2点	大気	処理作業中	測定3	処理作業室内	各2点又は3点	※	測定4	負圧・除じん装置の排出吹き出し口	出口吹出し風速1m/sec以下の位置各2点		処理作業後(シト養生中)	測定5	処理作業室敷地境界	4方向各1点(敷地境界)		測定6	処理作業室内	各2点		作業終了後シト撤去後1週間以内	測定7	処理作業室内	各2点又は3点	※	測定8	処理作業室以外の室内又は室外	計2点	大気
測定時期	測定名称	測定場所	測定点	備考																																						
処理作業前	測定1	処理作業室内	各2点又は3点																																							
	測定2	処理作業室以外の室内又は室外	計2点	大気																																						
処理作業中	測定3	処理作業室内	各2点又は3点	※																																						
	測定4	負圧・除じん装置の排出吹き出し口	出口吹出し風速1m/sec以下の位置各2点																																							
処理作業後(シト養生中)	測定5	処理作業室敷地境界	4方向各1点(敷地境界)																																							
	測定6	処理作業室内	各2点																																							
作業終了後シト撤去後1週間以内	測定7	処理作業室内	各2点又は3点	※																																						
	測定8	処理作業室以外の室内又は室外	計2点	大気																																						
<9.1.4> 施工におけるアスベスト粉じん飛散防止措置等	施工におけるアスベスト粉じん飛散防止措置等は、関係法令によるほか、<9.1.3>、<9.1.4>及び<9.1.5>に示すものうち、特に次の事項については「センター指針」の「5.2.4飛散防止措置等」に基づき実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 粉じん飛散抑制剤の使用 2) 粉じん飛散防止処理剤の使用 3) 負圧・除じん装置の設置 4) 隔離シートの撤去 																																									
<9.1.5> 処理工事	処理工事 <ol style="list-style-type: none"> 1. 除去処理工事は、<9.1.3>及び<9.1.4>によるほか、「センター指針」の「吹付けアスベスト処理工事マニュアル」の「I 除去処理工事」に定める「5.除去処理工事作業手順」に基づいて行う。 																																									

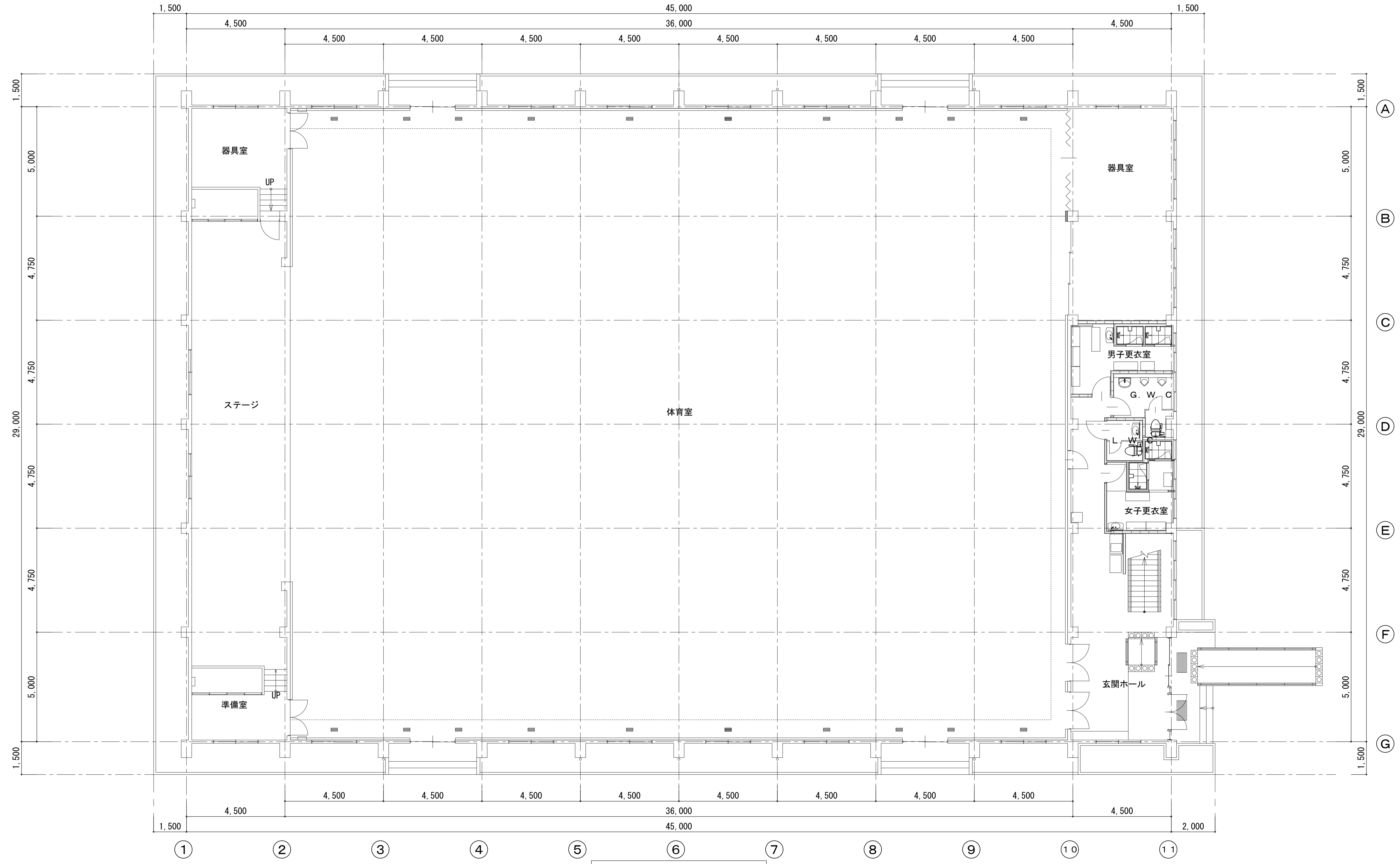
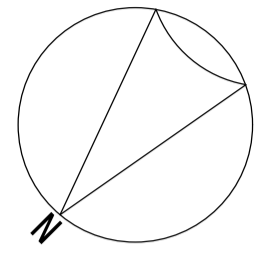
<9.1.5> アスベスト含有成形板の除去	<ol style="list-style-type: none"> 2. 封じ込め処理工事は、「センター指針」の「吹付けアスベスト処理工事マニュアル」の「II 封じ込め処理工事」に定める「5.封じ込め処理作業手順」に基づいて行う。 3. 囲い込み処理工事は、「センター指針」の「吹付けアスベスト処理工事マニュアル」の「III 囲い込み処理工事」に定める「5.囲い込み処理作業手順」に基づいて行う。 なお、軽量鉄骨天井地下、つりボルト用彫込みアンカーの取付けは<6.6.1>~<6.6.4>によることとし、アスベスト粉じん飛散防止措置を講じたうえで行う。 4. アスベスト含有成形板の撤去工事は、<9.1.5>によるほか、「非飛散性アスベスト廃棄物の適正処理について」(平成17年3月30日付環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課適正処理・不法投棄対策室長 環産産発第050330010)別添の「非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針」(以下「技術指針」という。))の「第3章 撤去」及び次の事項に基づき実施する。 5. 上記によるほか、処理作業に伴い発生する飛散性アスベストを含む廃棄物(以下、「アスベスト廃棄物」という。)を作業当日に適切に処理可能となるよう作業手順を定める。なお、一日の作業終了時には床等を高性能真空掃除機等により清掃する。 材料 粉じん飛散防止処理剤、粉じん飛散抑制剤は散布特性、浸透湿潤性、耐久性、防・耐火性、防音性などを考慮して適切なものを選定し、関係資料を監督職員に提出する。				
<9.3.2> 材料	アスベスト廃棄物の処理 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「アスベスト廃棄物」の処理に当たっては、関係法令、地方公共団体・特定行政庁の指導等によるほか、「建設廃棄物処理マニュアル」(財)日本産業廃棄物処理振興センター「H13.7」に基づいて実施する。 2. アスベスト廃棄物をやむを得ず一時的に構内に保管する場合の保管場所等については、監督職員と協議する。 3. アスベスト廃棄物の横外搬出作業に当たって、作業実施予定日時等を事前に監督職員と協議する。 アスベスト含有建材飛散防止処理施工記録 <ol style="list-style-type: none"> 1. 施工記録報告書を作成し、監督職員に提出する。 2. 施工記録報告書は下記の事項により作成する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 施工計画書 2) 工事記録及び工事写真 3) 産業廃棄物処理記録 4) 施工調査等記録 5) 作業者の作業記録 6) 建物の使用に当たっての注意事項 7) 異状があった場合の連絡先等 8) 処理工事期間 9) 処理工事業者名 10) 処理工事の場所・部位 11) 飛散防止処理剤の種類と使用量等 12) 囲い込み材料の使用量等 13) その他必要な事項 				
<9.1.2> 除去工事共通事項	工事管理者 <ol style="list-style-type: none"> 1. 処理工事に係る総合的技術管理者を選任する。 なお、工事管理者は、アスベスト含有建材飛散防止処理施工等にかかわる指導、及び管理を行う能力を有し、建設業法で規定する主任技術者又は監理技術者の資格を有する者とする。 2. 工事管理者と現場代理人及び石綿作業主任者はこれを兼ねることができる。 				
<9.1.3> アスベスト含有吹付け材の除去	アスベスト含有吹付け材の処理を行う範囲は図示による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>室名</th> <th>処理を行うアスベスト含有吹付け材の仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> アスベスト含有吹付け材の処理 ・密封処理(二重袋梱包) ・セメント固化	室名	処理を行うアスベスト含有吹付け材の仕様		
室名	処理を行うアスベスト含有吹付け材の仕様				
<9.1.4> アスベスト含有保温材等の除去	アスベスト含有保温材等の処理を行う範囲は図示による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>室名</th> <th>処理を行うアスベスト含有保温材等の仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	室名	処理を行うアスベスト含有保温材等の仕様		
室名	処理を行うアスベスト含有保温材等の仕様				

<9.1.5> アスベスト含有成形板の除去	<table border="1"> <thead> <tr> <th>室名</th> <th>処理を行うアスベスト含有成形板の仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> アスベスト含有成形板の集積・運搬等 アスベスト含有成形板の集積・運搬等は、<9.1.5>によるほか、「技術指針」の「第4章 収集運搬」及び次の事項に基づき実施する。 アスベスト含有成形板の処分等 アスベスト含有成形板の処分等は、<9.1.5>によるほか、「技術指針」の「第5章 中間処理」、「第6章 最終処分」及び次の事項に基づき実施する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種別</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ビーズ法ホリスレフォーム ・押出法ホリスレフォーム</td> <td>・保温板2種b</td> <td>・25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・保温板3種b</td> <td>・25</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・硬質ウレタンフォーム</td> <td>熱伝導率0.023W/(m・K)以下</td> <td>・30</td> <td>屋根</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 上記保温材は、特定フロンを含まないものとする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">断熱材現場発泡工法</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>種別</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ビーズ法ホリスレフォーム ・押出法ホリスレフォーム</td> <td>・保温板2種b</td> <td>・25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・保温板3種b</td> <td>・25</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・硬質ウレタンフォーム</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 上記保温材は、特定フロンを含まないものとする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">断熱材現場発泡工法</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種1</td> <td>・25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・A種2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・A種3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 上記保温材は、特定フロンを含まないものとする。	室名	処理を行うアスベスト含有成形板の仕様			種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所	・ビーズ法ホリスレフォーム ・押出法ホリスレフォーム	・保温板2種b	・25		・保温板3種b	・25		・硬質ウレタンフォーム	熱伝導率0.023W/(m・K)以下	・30	屋根				断熱材現場発泡工法				種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所	・ビーズ法ホリスレフォーム ・押出法ホリスレフォーム	・保温板2種b	・25		・保温板3種b	・25		・硬質ウレタンフォーム							断熱材現場発泡工法			種類	厚さ(mm)	施工箇所	・A種1	・25		・A種2			・A種3		
室名	処理を行うアスベスト含有成形板の仕様																																																											
種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所																																																									
・ビーズ法ホリスレフォーム ・押出法ホリスレフォーム	・保温板2種b	・25																																																										
	・保温板3種b	・25																																																										
・硬質ウレタンフォーム	熱伝導率0.023W/(m・K)以下	・30	屋根																																																									
断熱材現場発泡工法																																																												
種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所																																																									
・ビーズ法ホリスレフォーム ・押出法ホリスレフォーム	・保温板2種b	・25																																																										
	・保温板3種b	・25																																																										
・硬質ウレタンフォーム																																																												
断熱材現場発泡工法																																																												
種類	厚さ(mm)	施工箇所																																																										
・A種1	・25																																																											
・A種2																																																												
・A種3																																																												
<9.5.2> 断熱材打込み工法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種1</td> <td>・25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・A種2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・A種3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 上記保温材は、特定フロンを含まないものとする。	種類	厚さ(mm)	施工箇所	・A種1	・25		・A種2			・A種3																																																	
種類	厚さ(mm)	施工箇所																																																										
・A種1	・25																																																											
・A種2																																																												
・A種3																																																												
<9.5.3> 断熱材現場発泡工法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種1</td> <td>・25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・A種2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・A種3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 上記保温材は、特定フロンを含まないものとする。	種類	厚さ(mm)	施工箇所	・A種1	・25		・A種2			・A種3																																																	
種類	厚さ(mm)	施工箇所																																																										
・A種1	・25																																																											
・A種2																																																												
・A種3																																																												

記 事	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事務部長</th> <th>総務課長</th> <th>課長補佐</th> <th>施設係長</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当																<table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務</td> </tr> </tbody> </table>	業務名	鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務	<table border="1"> <thead> <tr> <th>検 査</th> <th>担 当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	検 査	担 当			<table border="1"> <thead> <tr> <th>工事名称</th> <th>日付</th> <th>総数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事</td> <td>平成27年6月</td> <td>06 / 15</td> </tr> </tbody> </table>	工事名称	日付	総数	鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年6月	06 / 15
	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当																															
業務名																																				
鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務																																				
検 査	担 当																																			
工事名称	日付	総数																																		
鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年6月	06 / 15																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>図面名称</th> <th>縮尺</th> <th>番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建築改修工事特記仕様書(4)</td> <td>—</td> <td>特-04</td> </tr> </tbody> </table>	図面名称	縮尺	番号	建築改修工事特記仕様書(4)	—	特-04																													
図面名称	縮尺	番号																																		
建築改修工事特記仕様書(4)	—	特-04																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>鈴鹿工業高専専門学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table>	鈴鹿工業高専専門学校		<table border="1"> <thead> <tr> <th>株式会社 総企画設計</th> <th>管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	株式会社 総企画設計	管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行																														
鈴鹿工業高専専門学校																																				
株式会社 総企画設計	管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行																																			

階	室名	床	巾木	高さ	塗装	種	塗装	壁	塗装	天井	造作塗装	備考	凡例
1	体育室	t=15捲貼 t=18ナラフローリング FOW	ラワン	150	OS	正面t=24コペンハーゲンリブ張 一階t=1レザ 二階モルタルコテ仕上	クリアー OS ビニールペンキ	モルタル刷毛引き		小屋根化粧		タラップ カーテンボックス	FOW フロアーワックスオイル磨き FOW フロアーワックスオイル磨き OS オイルステイン EP-G つや有合成樹脂エマルジョンペイント OP オイルペンキ DP 耐水性塗料
	ステージ	t=18ナラフローリング FOW	ラワン	100	OS	モルタルコテ仕上	ビニールペンキ	モルタル刷毛引き		小屋根化粧		ブドウダナ (ライトゲージ) OP	
	ギャラリー	モルタルコテ仕上	モルタルコテ仕上		ビニールペンキ	モルタルコテ仕上	ビニールペンキ	モルタルコテ仕上	ビニールペンキ			手摺	
2	フロアー	ビニル床シート張り 厚2.5	モルタルコテ仕上		EP-G	モルタルコテ仕上	EP-G	モルタルコテ仕上		小屋根化粧		手摺	

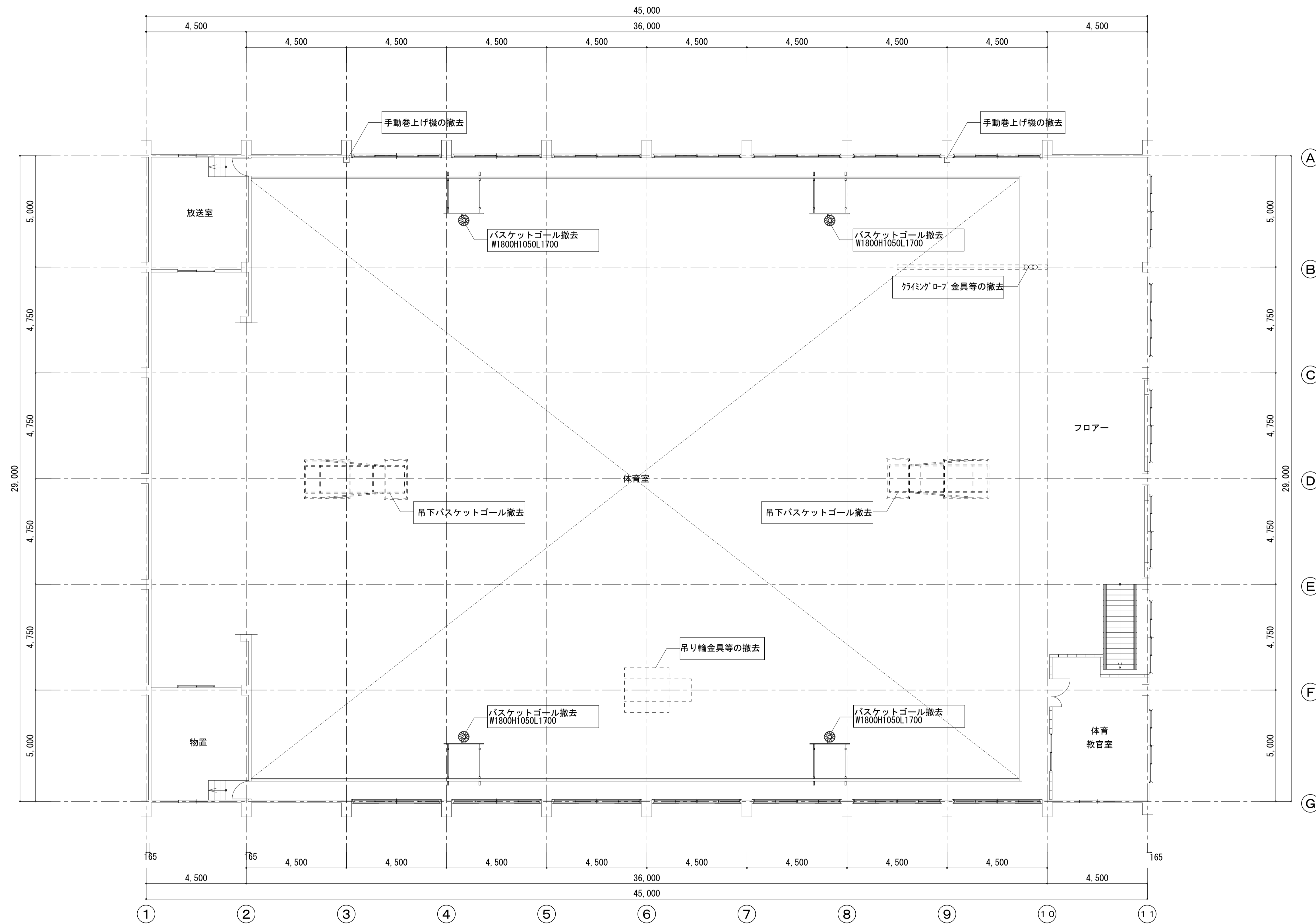
内部仕上表



1階平面図 (改修前・後) 1/100

記 事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担 当	業務名	検 図	担 当	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年6月	07/15
						株式会社 緑企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番 号
									1階平面図・仕上表 (改修前・後)	1/100	A-01

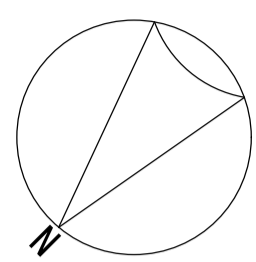
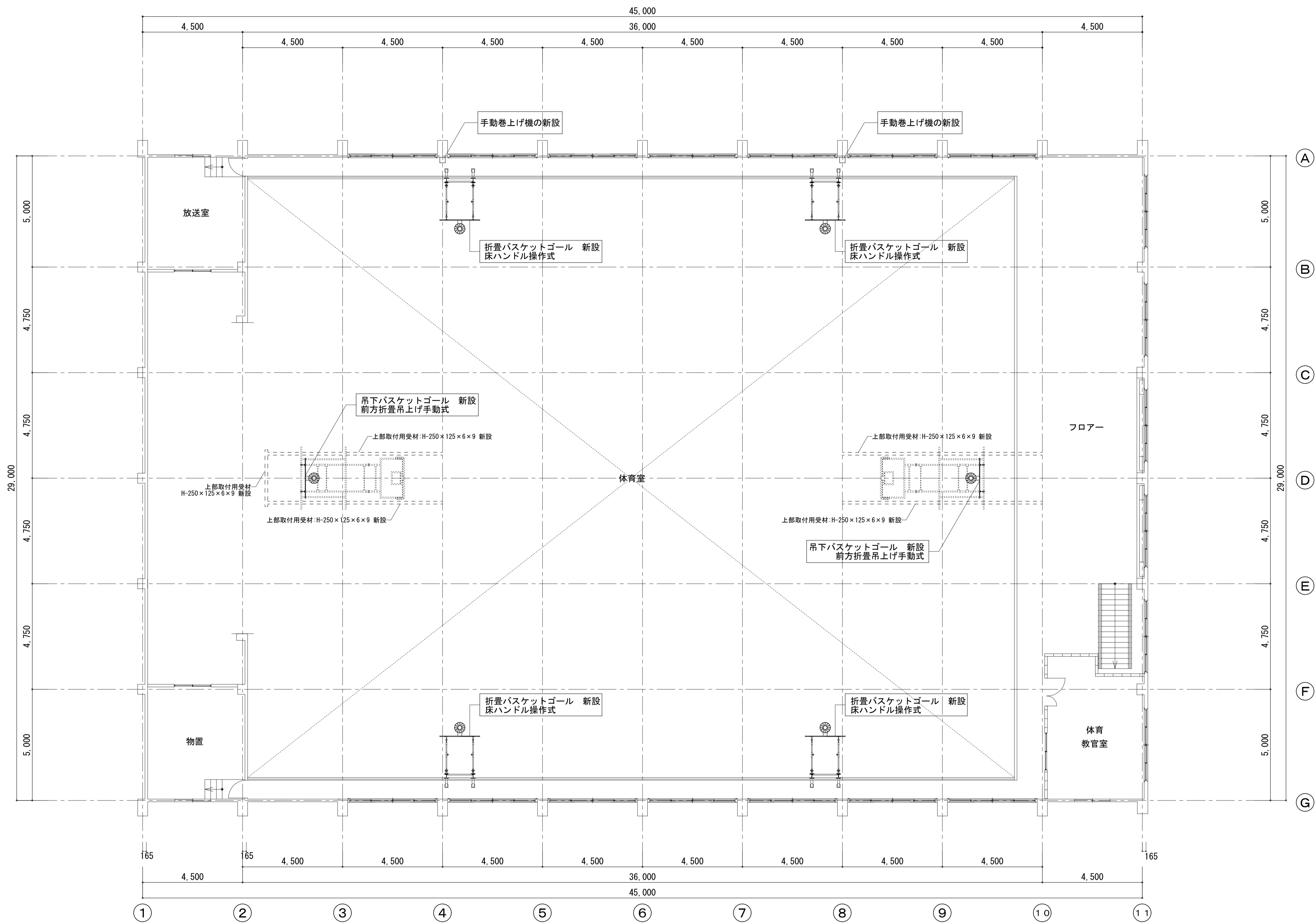
※A3版の場合は50%縮尺とする



2階平面図 (改修前) 1/100

記 事	鈴鹿工業高等専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担 当	業務名	検 査	担 当	工事名称	日付	総数
							鈴鹿工業高等専門学校第1体育館等非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高等専門学校第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年6月	08 / 15
							株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
										2階平面図 (改修前)	1/100	A-02

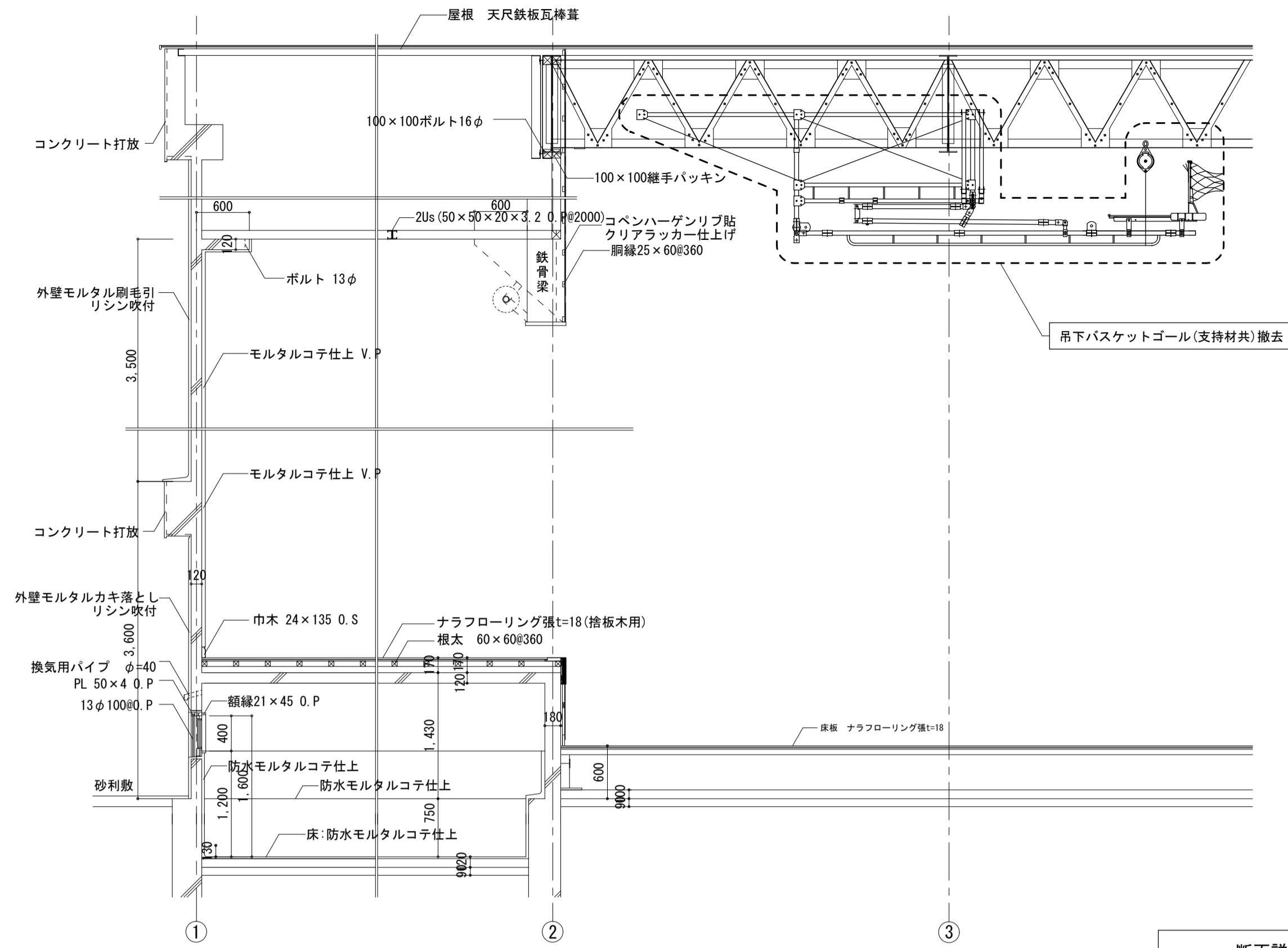
※A3版の場合は50%縮尺とする



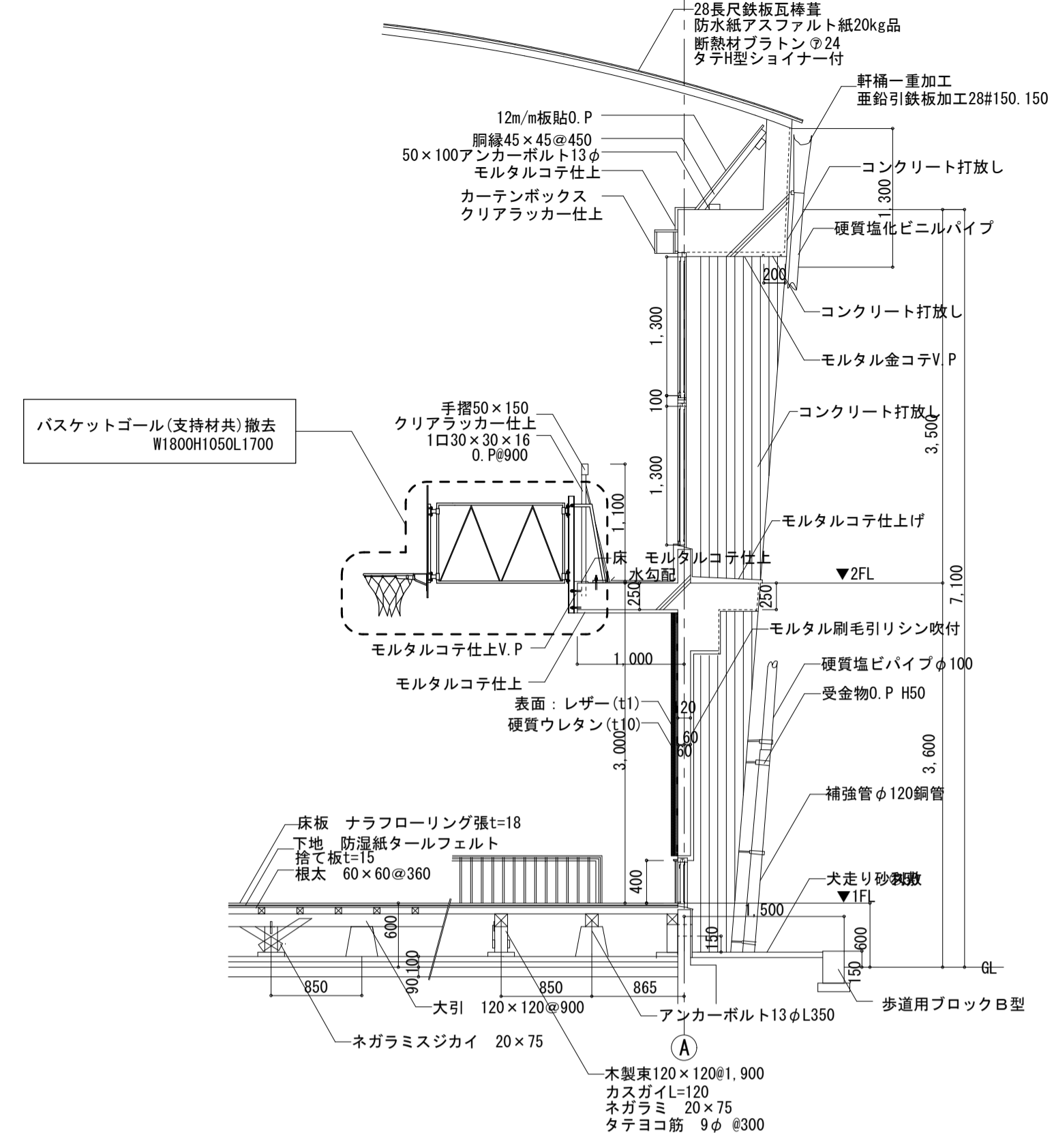
2階平面図 (改修後) 1/100

記 事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担 当	業務名	校 園	担 当	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館等 非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修 その他工事	平成27年6月	09 / 15
						株式会社 緑企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
									2階平面図 (改修後)	1 / 100	A-03

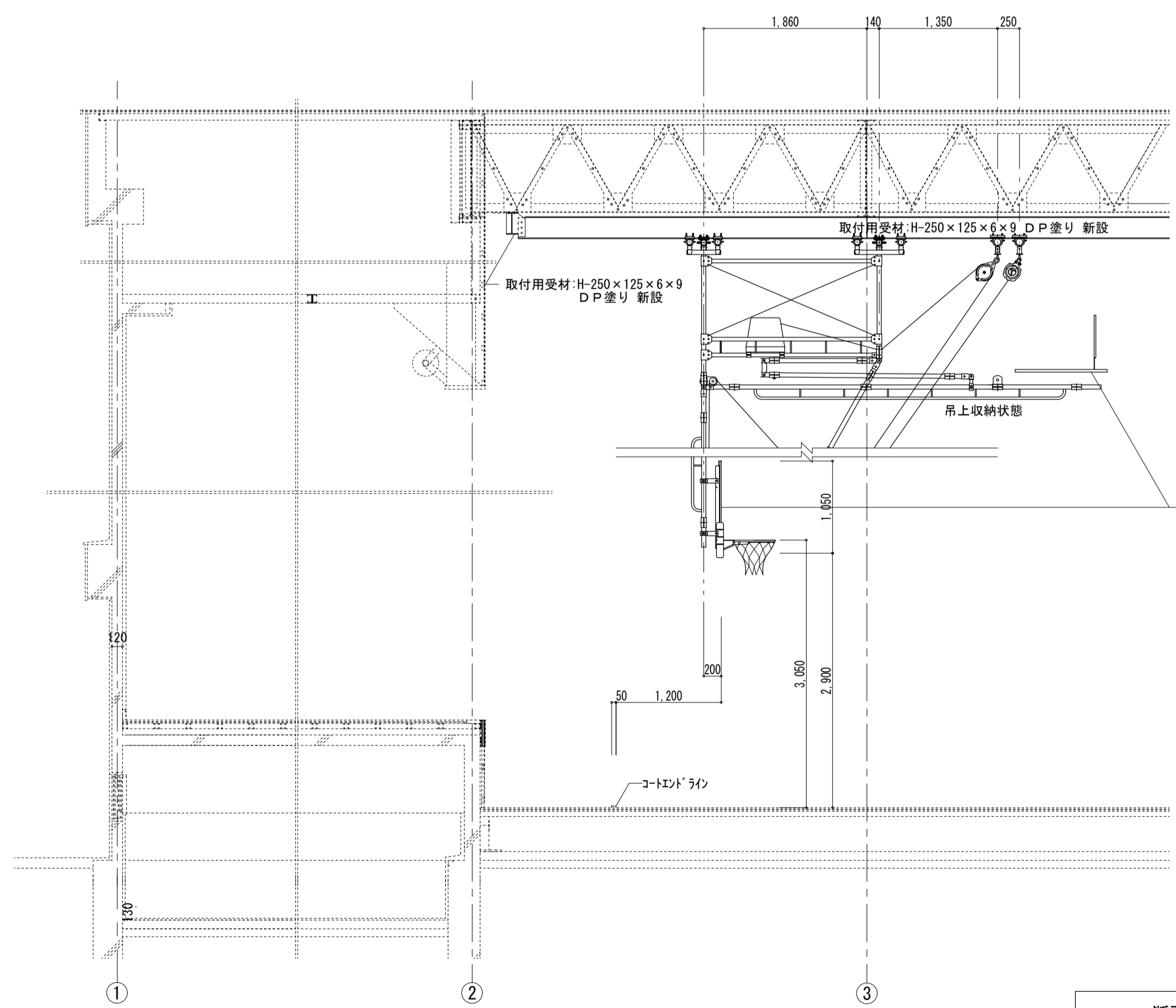
※A3版の場合は50%縮尺とする



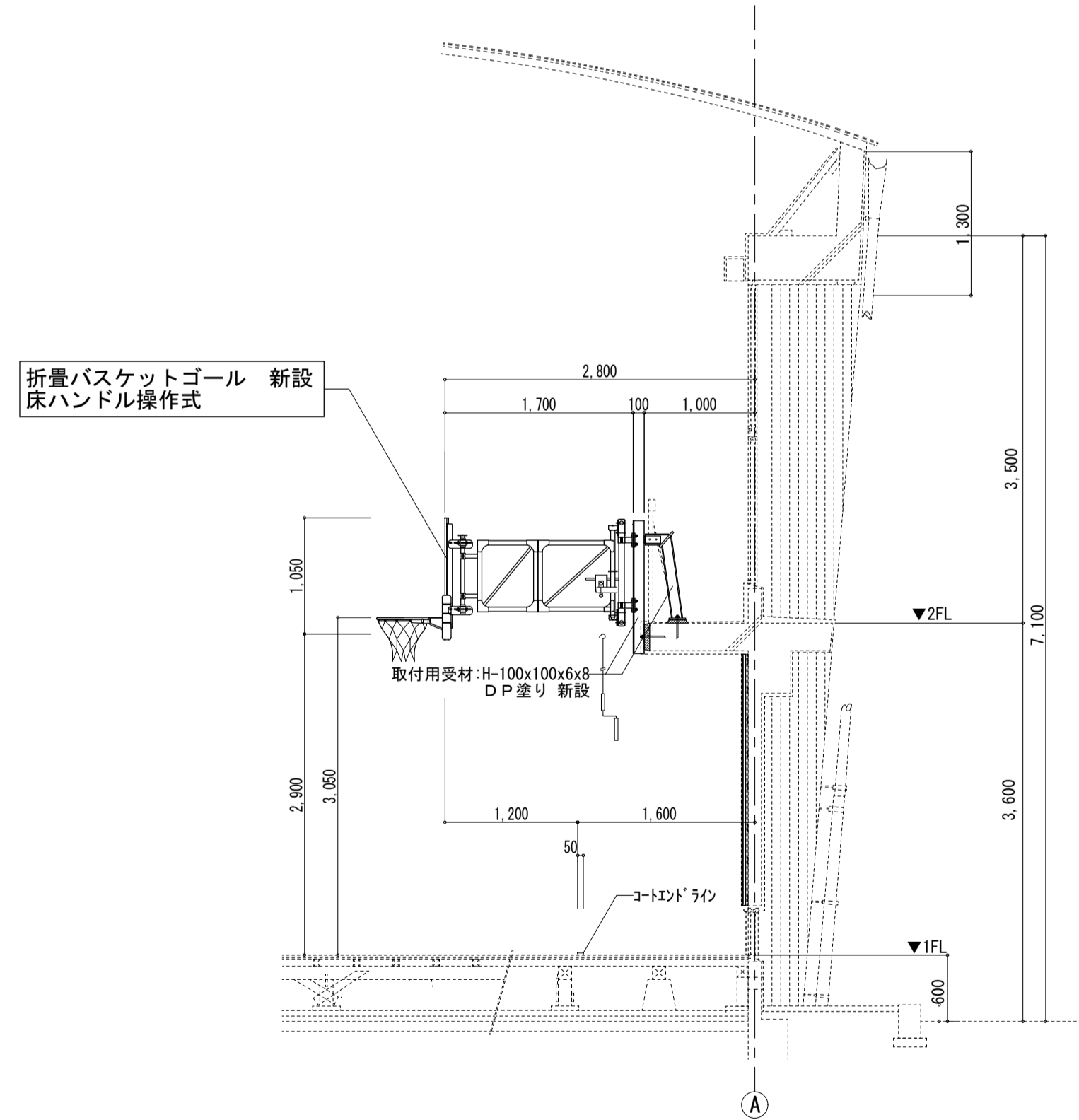
断面詳細図(改修前) 1/50



断面詳細図(改修後) 1/50



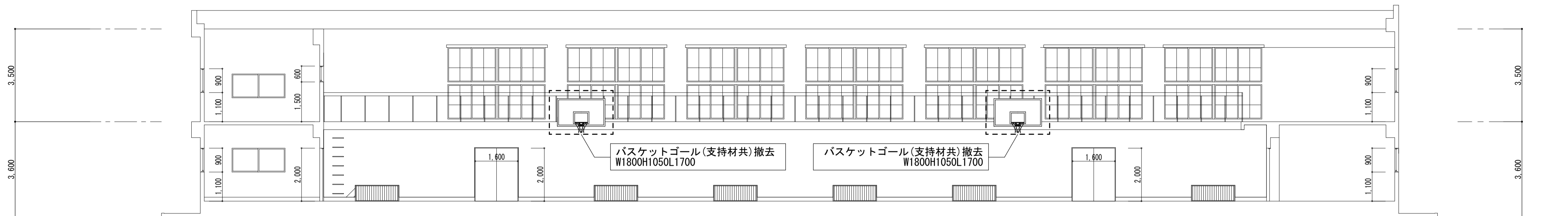
断面詳細図(改修後) 1/50



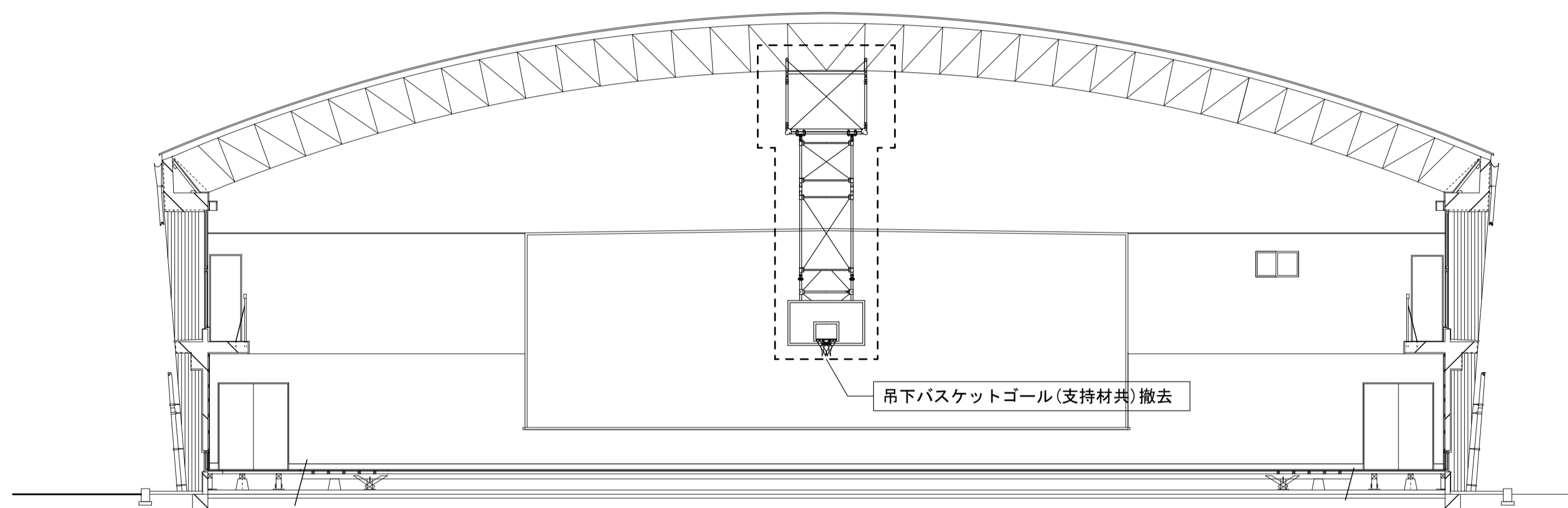
断面詳細図(改修後) 1/50

記 事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担 当	業務名	検 図	担 当	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年6月	10/15
						株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
									断面詳細図(改修前・後)	1/50	A-04

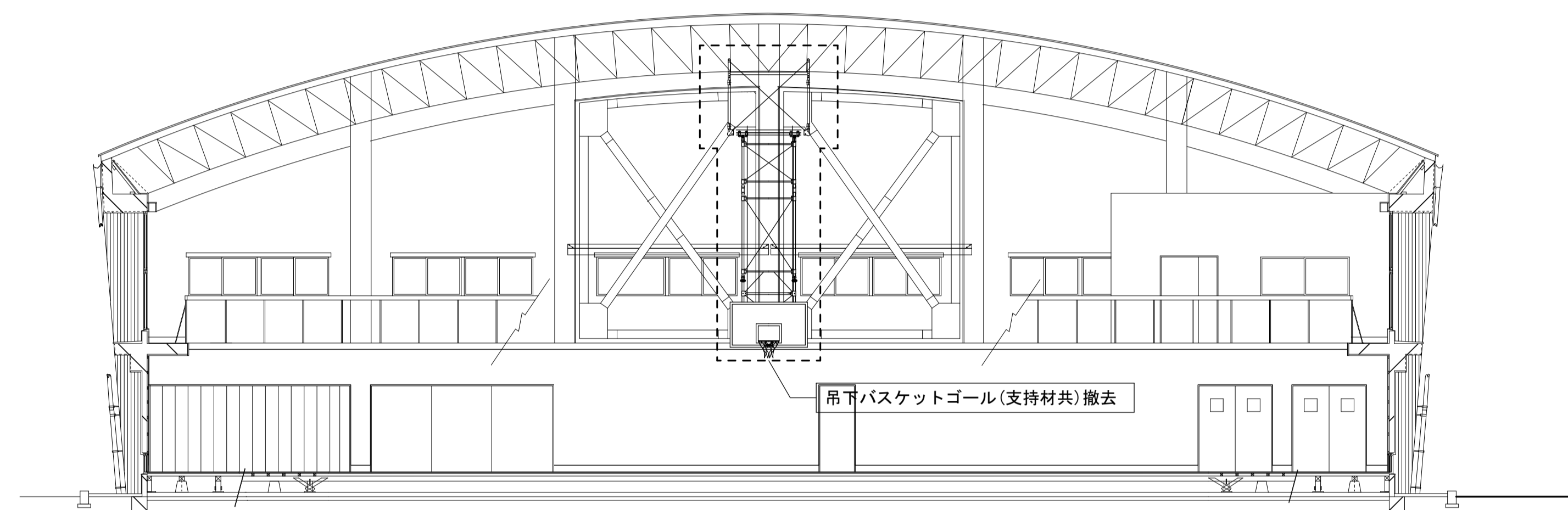
※A3版の場合は50%縮尺とする



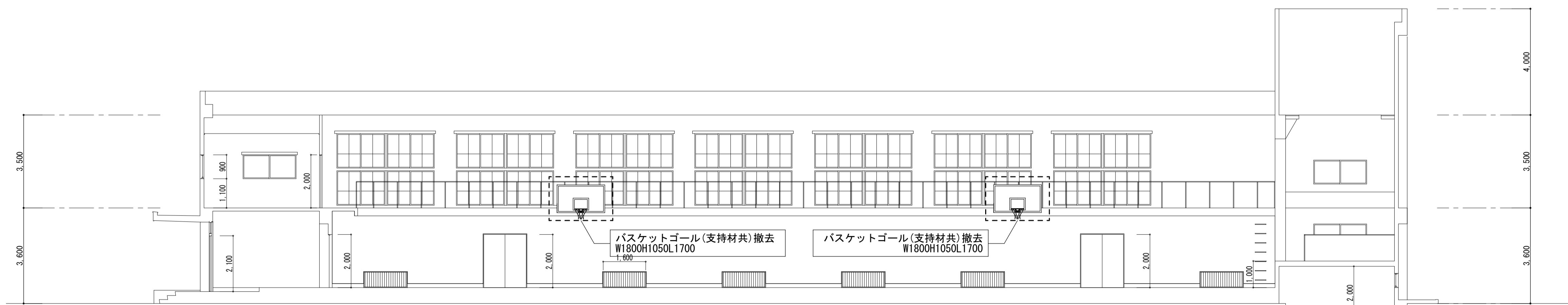
北面図 1/100



西面図 1/100



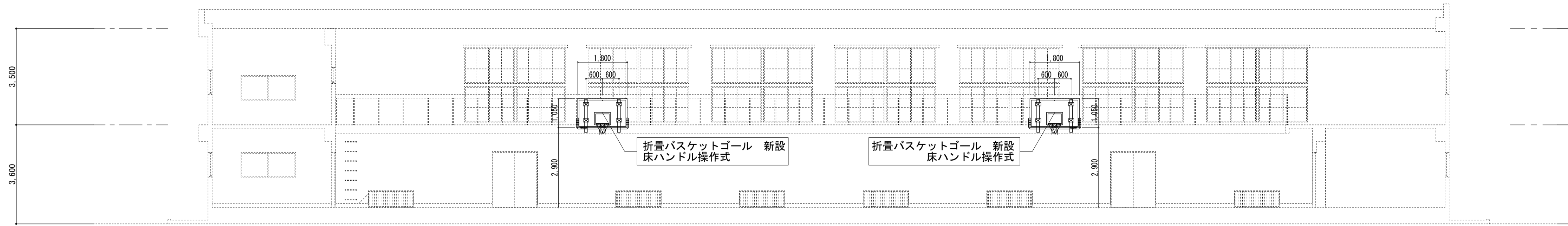
東面図 1/100



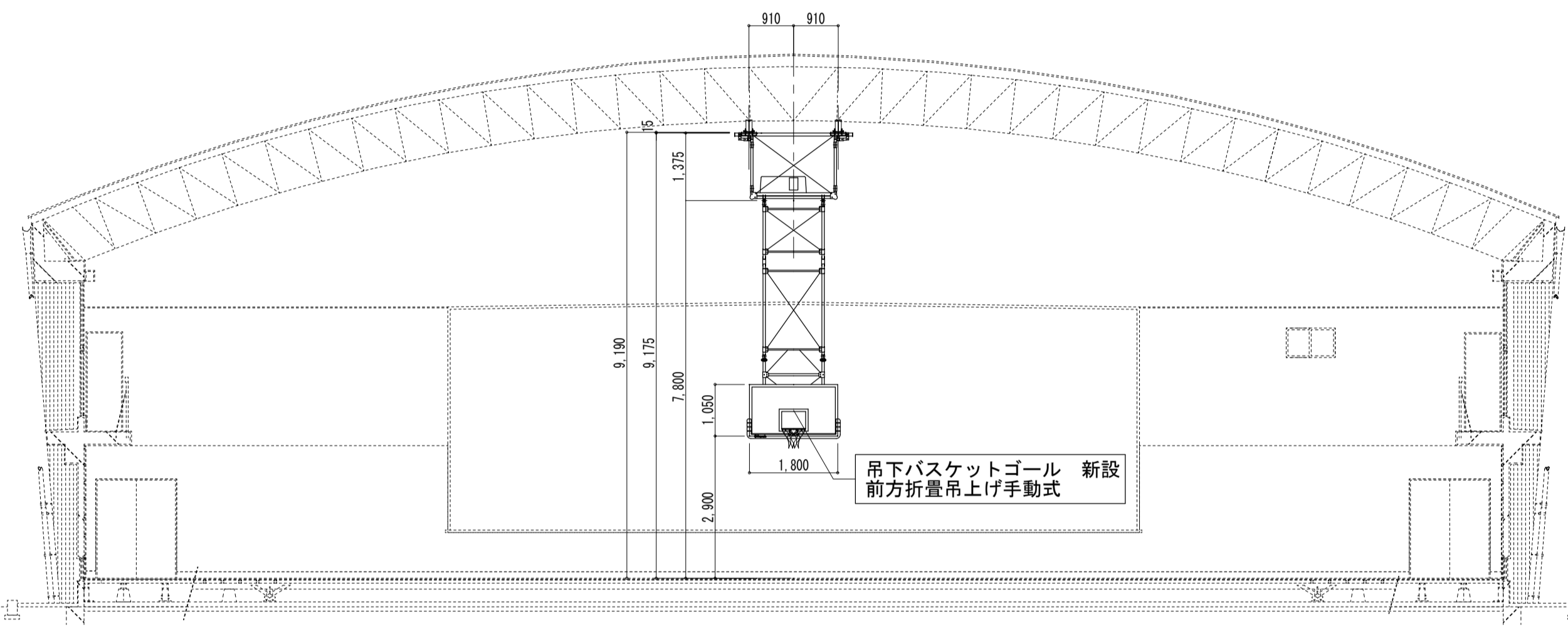
南面図 1/100

記事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検図	担	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年6月	11 / 15
						株式会社 線企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
									展開図(改修前)	1 / 100	A-05

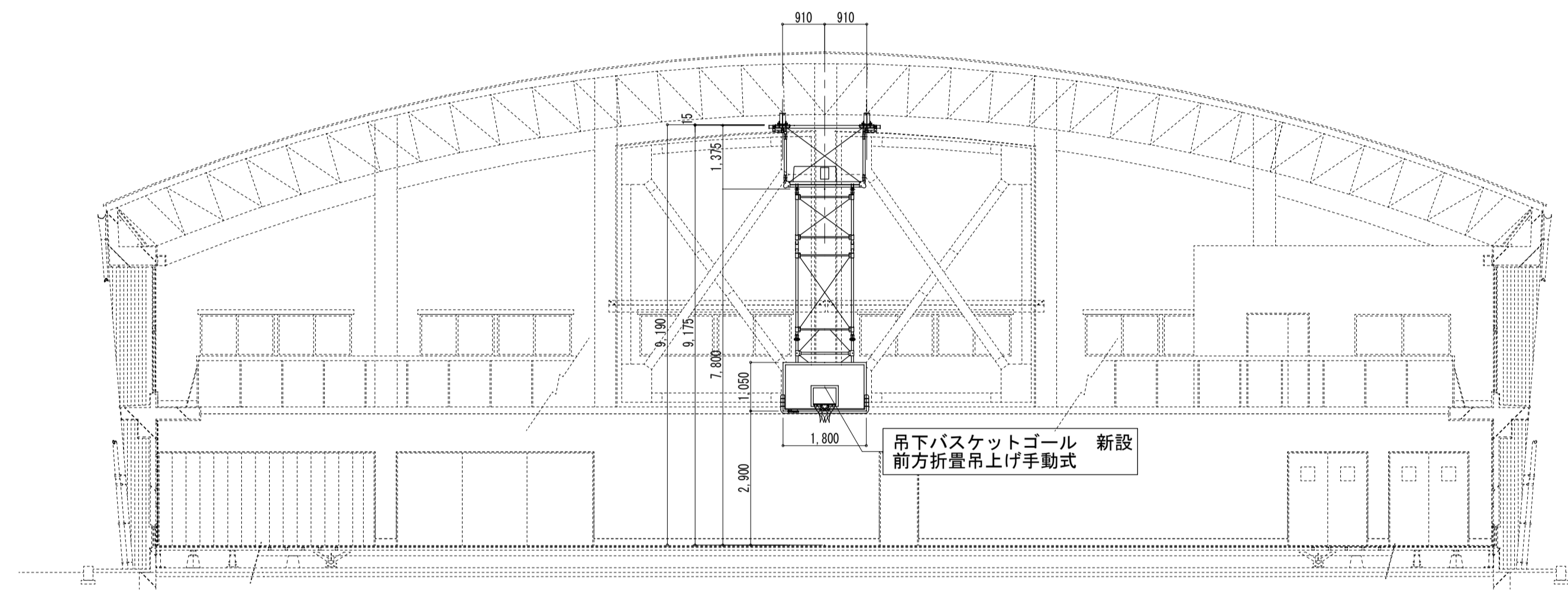
※A3版の場合は50%縮尺とする



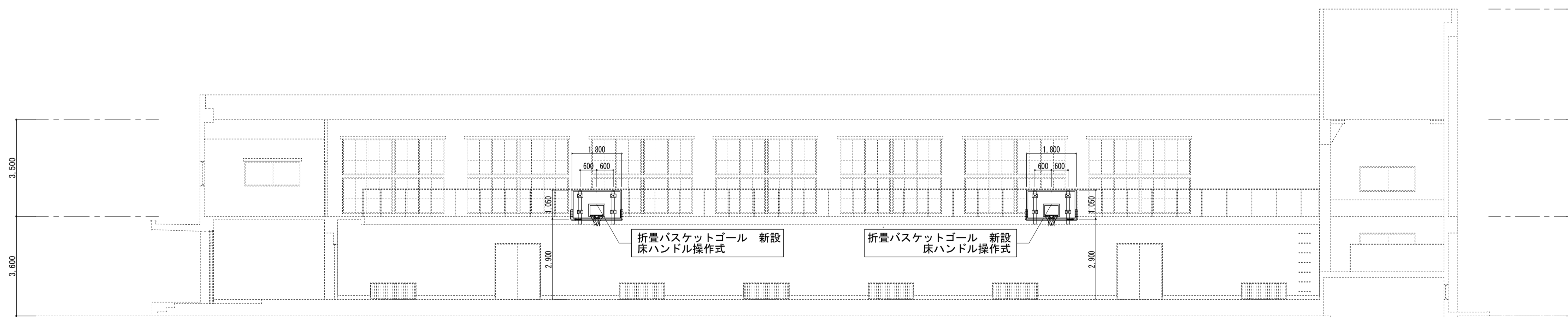
北面図 1/100



西面図 1/100



東面図 1/100



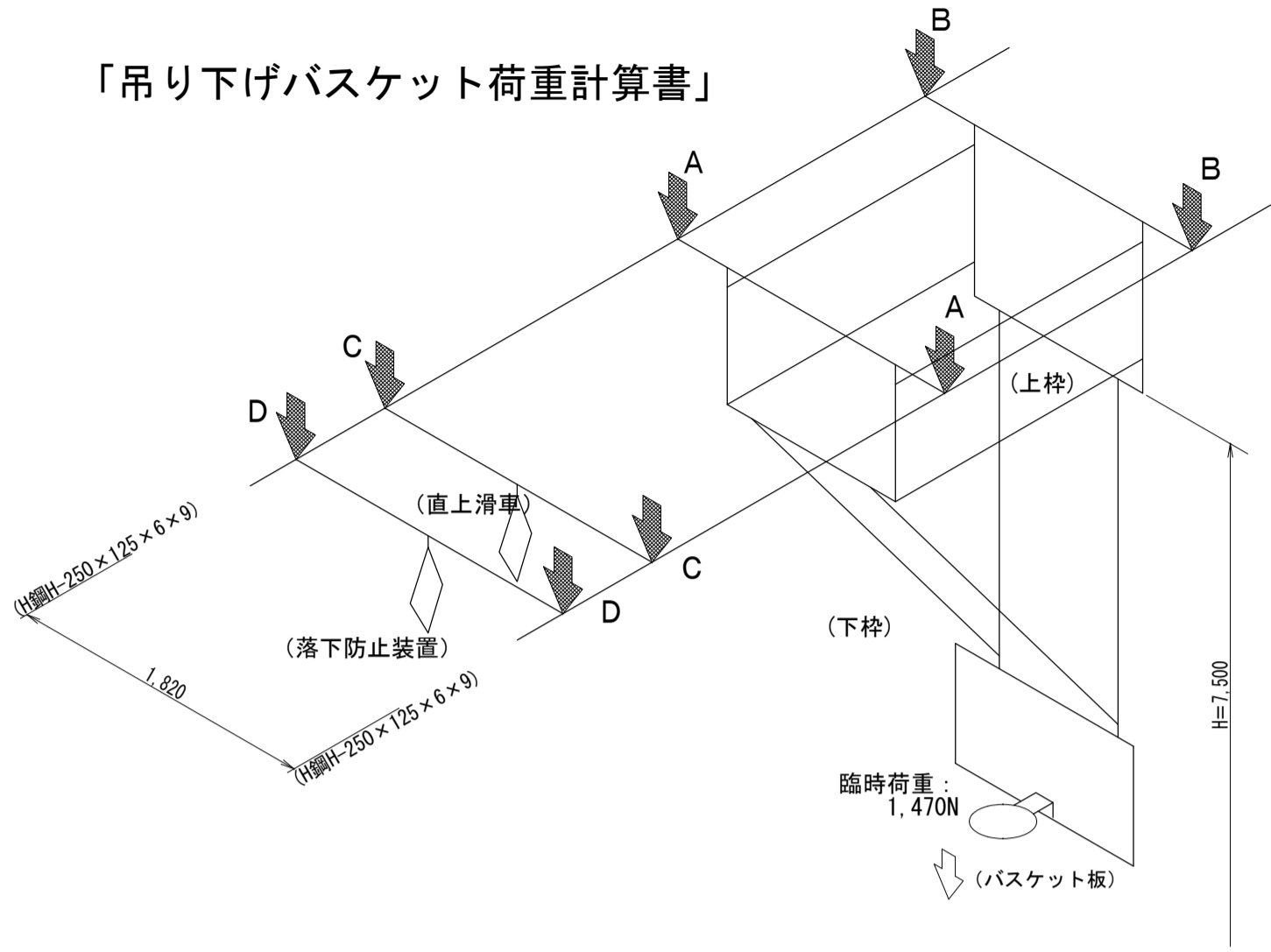
南面図 1/100

記 事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担 当	業務名	検 図	担 当	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年6月	12 / 15
						株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
									展開図(改修後)	1 / 100	A-06

※A3版の場合は50%縮尺とする

参考図

「吊り下げバスケット荷重計算書」



長期全重量 (バスケット自重) : 約486kg
リング先端にかかる短期荷重 (吊下げて使用時)

A : 上枠前部にかかる荷重 (垂直方向)

長期 (収納時)	10N
短期 (吊下使用時)	580N

B : 上枠後部にかかる荷重 (垂直方向)

長期 (収納時)	1,270N
短期 (吊下使用時)	2,350N

C : 直上車にかかる荷重 (垂直方向)

長期 (収納時)	1,110N
----------	--------

D : 落下防止装置にかかる荷重 (垂直方向)

短期 (ワイヤー切断時)	3,920N
--------------	--------

地震力算出用の設計用震度は
水平方向Kh=1.5 垂直方向Kv=0.75とする

A : 上枠前部にかかる荷重 (垂直方向)

短期	4,939N
----	--------

B : 上枠後部にかかる荷重 (垂直方向)

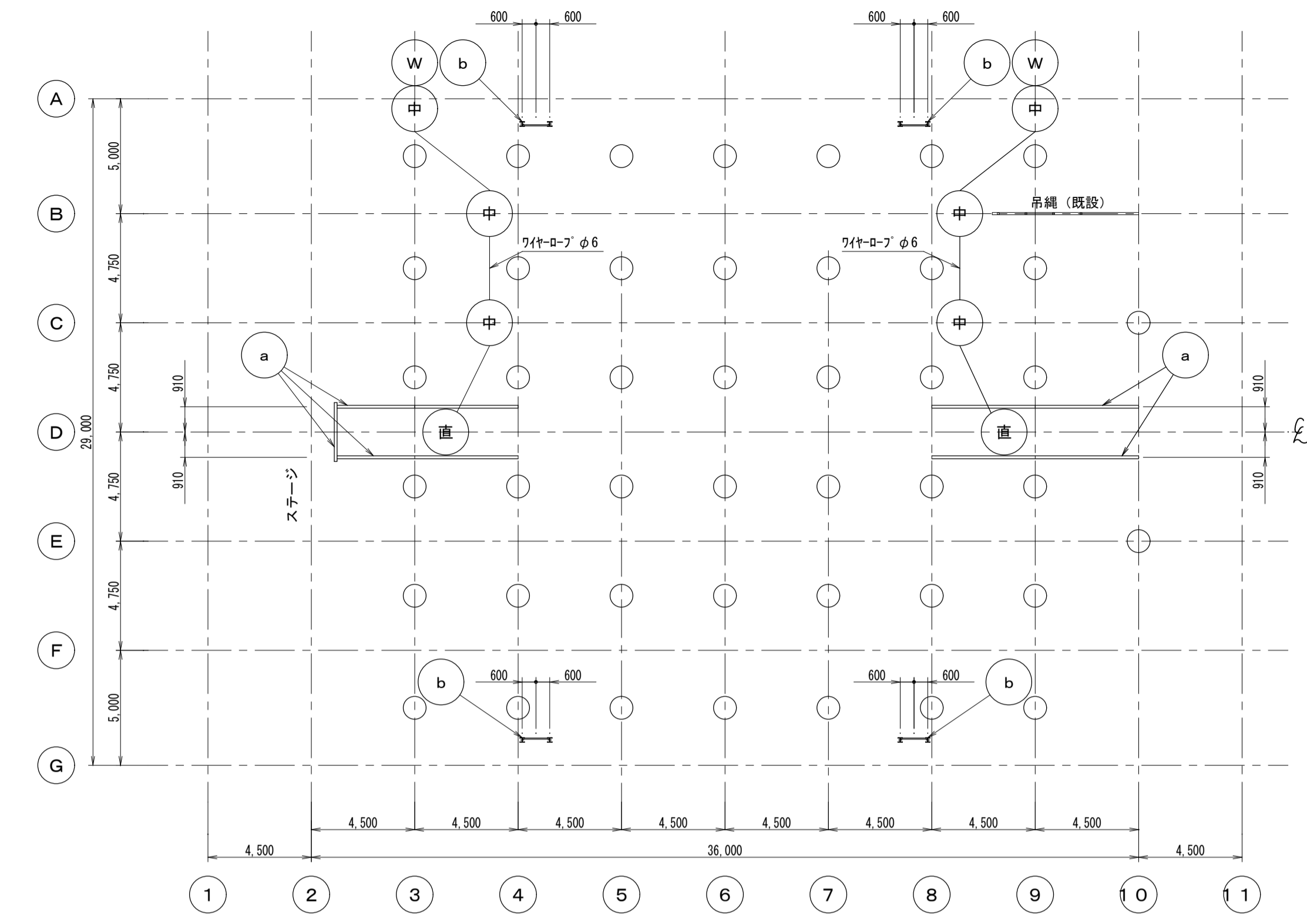
短期	9,280N
----	--------

C : 直上車にかかる荷重 (垂直方向)

短期	300N
----	------

D : 落下防止装置にかかる荷重 (垂直方向)

短期	300N
----	------



バスケットゴール取付伏図 S=1/200

- a : 吊下げバスケット用受材 H-250×125×6×9 (鉄骨工事)
- b : 折畳バスケット用受材 H-100×100×6×8 (鉄骨工事)
- 直 : 直上車 ...2ヶ
- 中 : 中間車 ...4ヶ
- W : ウィンチ ...2ヶ

板出: 1350x77 折畳バスケット 荷重

全重量: 約187kg
リング先端にかかる短期荷重: 約1,470N

PA : 取付上部にかかる引張荷重

短期 (使用時)	約4,226N
----------	---------

PB : 取付下部にかかる圧縮荷重 (PA)

短期 (使用時)	約4,226N
----------	---------

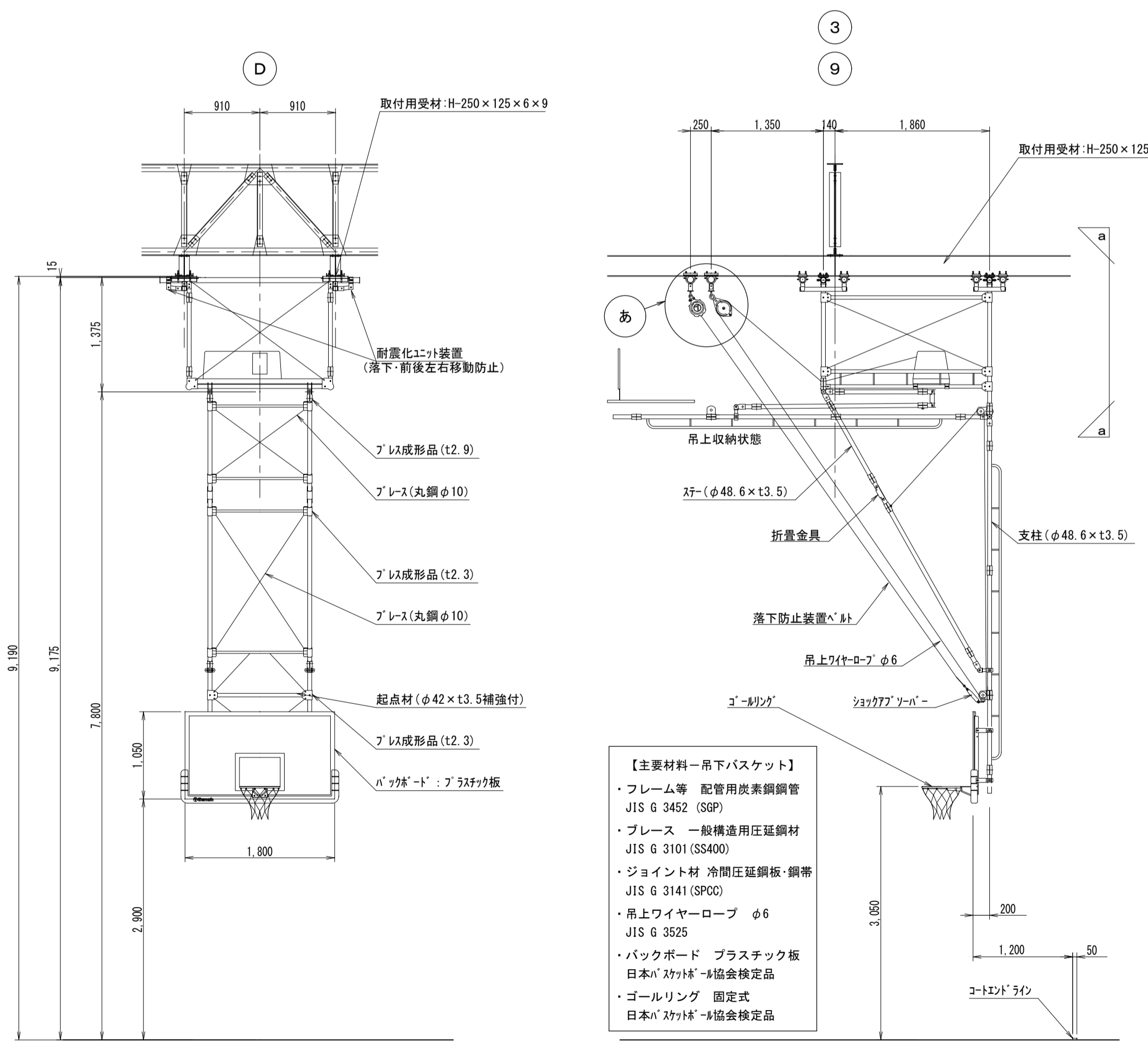
PC : 取付下部にかかる垂直荷重

短期 (使用時)	約1,650N
----------	---------

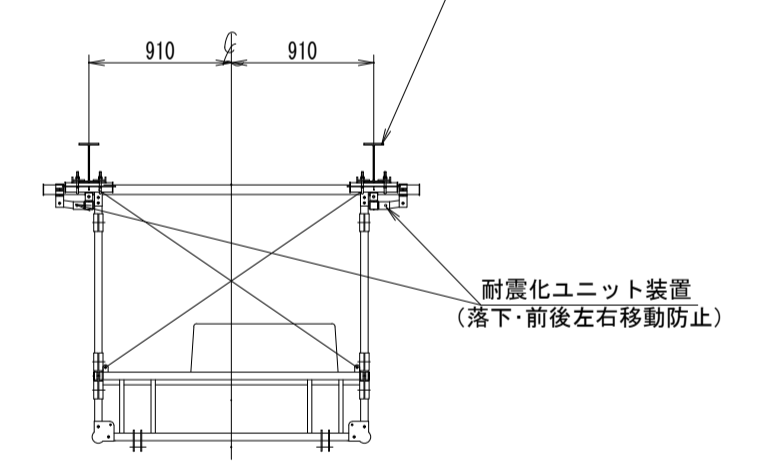
地震力算出用の設計用震度は
水平方向Kh=1.5 垂直方向Kv=0.75とする

R : 地震時に取付部にかかる水平応力
地震時応力 約4,080N

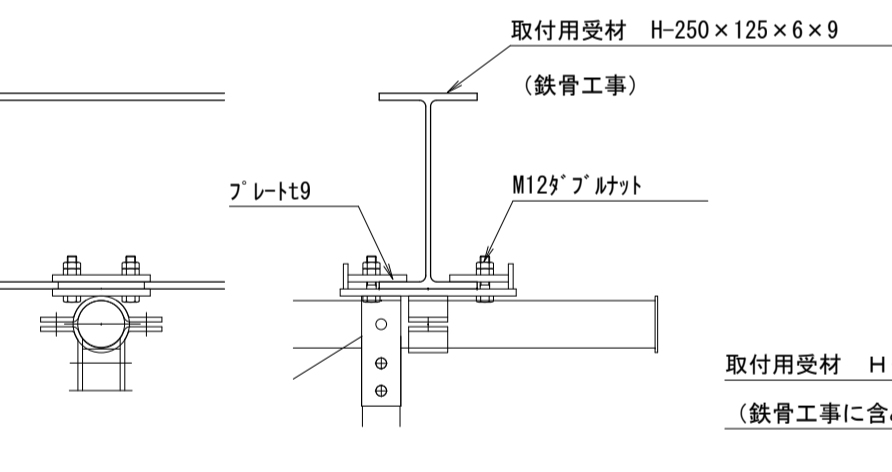
Q : 地震時に取付部にかかる垂直応力
地震時応力 約1,630N



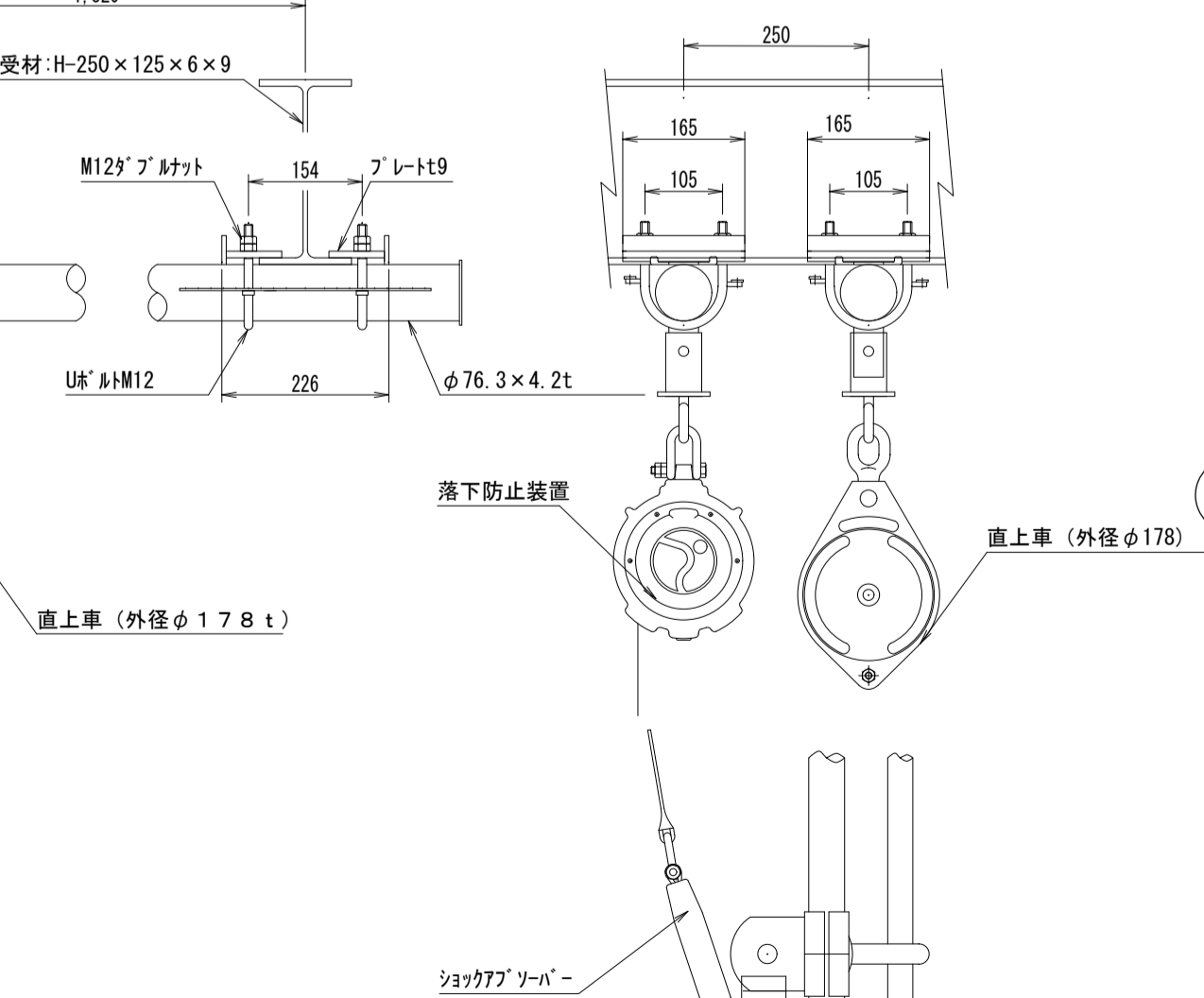
a-a矢視図



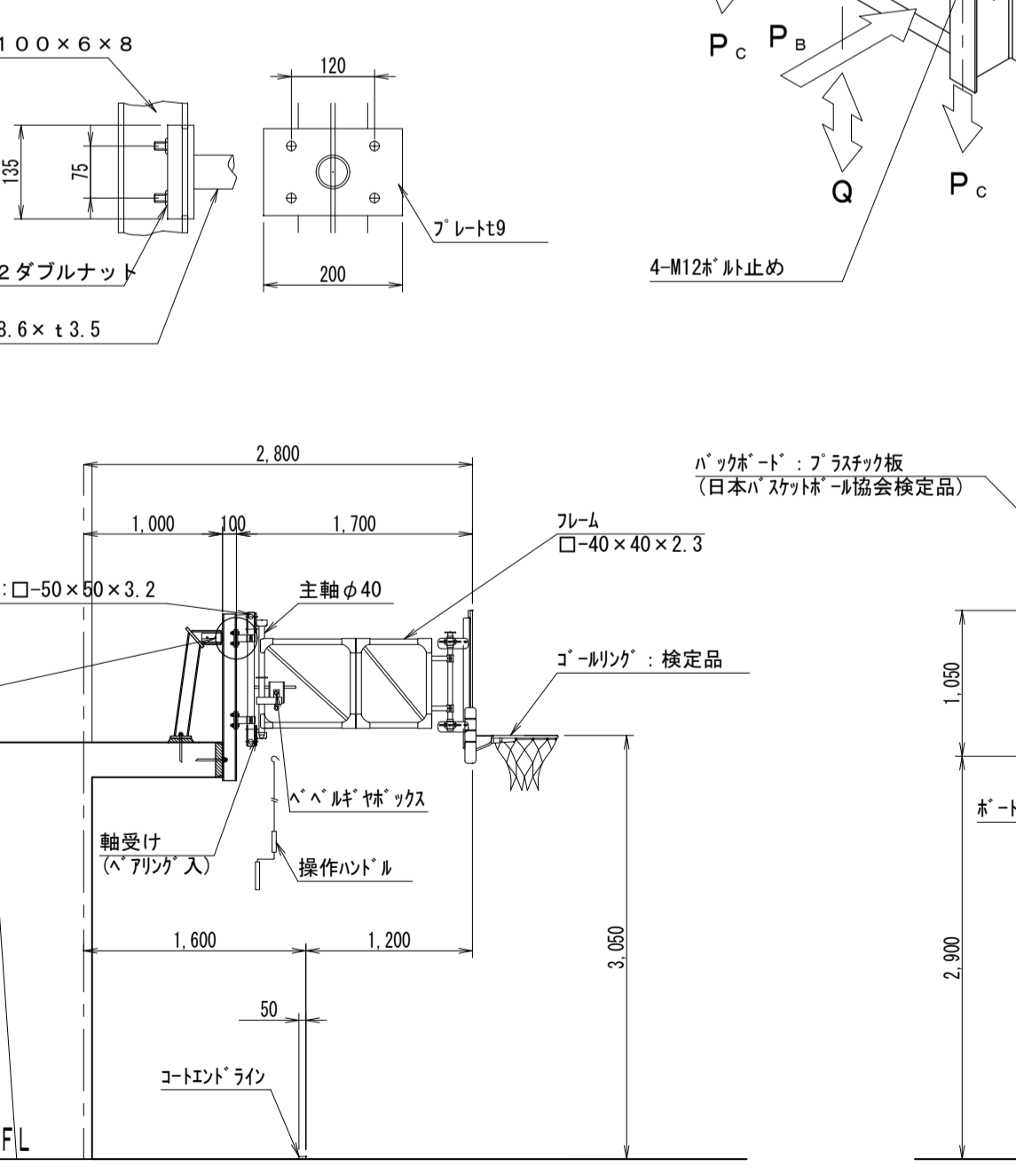
本体取付詳細 S=1/10



あ部取付詳細S=1/10



う部取付詳細 S=1/10



吊下バスケットゴール 1対前方折畳吊上げ手動式 S=1/50

折畳バスケットゴール 2対床ハンドル操作式 S=1/50

記 事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検査	担当	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年6月	13/14
						株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
									【参考図】バスケットゴール詳細図, バスケットゴール取付伏図	1/50,200	A-07

※A3版の場合は50%縮尺とする

改修工事標準図

1 改修工事概要

用 途 体育館
 構造・規模 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 2階建て 延べ面積 1515㎡
 改修内容

改 修	箇所数
吊下式バスケットゴール取替	2
折タタミ式バスケットゴール取替	4

2 使用材料

(1) コンクリート JIS A 5308
 レディミクストコンクリート 1類

部 位	種 類			設計基準強度 N/mm ²			スラブ	備 考
	普通	軽量		18	21	24		
捨コンクリート								
基礎・基礎梁								
梁・柱								
増設壁								
土間コンクリート								

(2) 鉄筋 JIS G 3112

径	材 質			継 手		備 考
	SD295A	SD345	SD390	柱・梁	その他	
D10~D16				・圧接 ・重ね	・圧接 ・重ね	
D19~				・圧接 ・重ね	・圧接 ・重ね	

※柱・梁の主筋の重ね継手については、監督員の承認が必要

(3) あと施工アンカー

アンカーの適用 ・金属系アンカー (部位) ※接着系アンカー

接着系アンカー 種類 ※カプセル型

径	D13	D16	D19	D22
引 張 耐 力	○			
せん断耐力	○			

(4) 鋼 材

部 位	材 質				備 考
	SS400	SN400B	SN490C		
H型钢	○				
鋼板(PL-16)			○		
鋼板(PL-6)	○				

(5) 高力ボルト

種 類	使 用 サ イ ズ			
	M12	M16	M20	
トルシア形 (S10T)		○		
JIS型 (F10T)				
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F&T相当)指定又は認定品				
特殊その他 (S10T認定品)				

(6) スタッド

JIS B 4498 頭付スタッド

(7) モルタル及びグラウト材

モルタルの種類 無収縮モルタル(8.2.10(b)による。)
 設計基準強度: $F_m=30$ N/mm²

グラウト材の種類 ・現場調合 ※プレミックスタイプ

圧縮強度試験 供試体: JIS A 1132に準じ 直径50mm 高さ100mmの円柱
 供試体の材令: 3日,7日及び28日とし、封かん養生
 供試体の採取: 午前,午後打設前及び最終打設時の3回を標準とする。ただし、1日の打設量が3m³を超える場合、増加量2m³当り1回を追加する。

3 施工要領

※ 特記がない場合、本要領によること。また、「標準仕様書」とは「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通大臣官庁官庁官庁官庁官庁 監修」を示す。

(1) あと施工アンカー工事

施工管理技術者 あと施工アンカー技術管理士又はあと施工アンカー主任技士 (あと施工アンカー協会資格)

技能者 第1種あと施工アンカー施工士

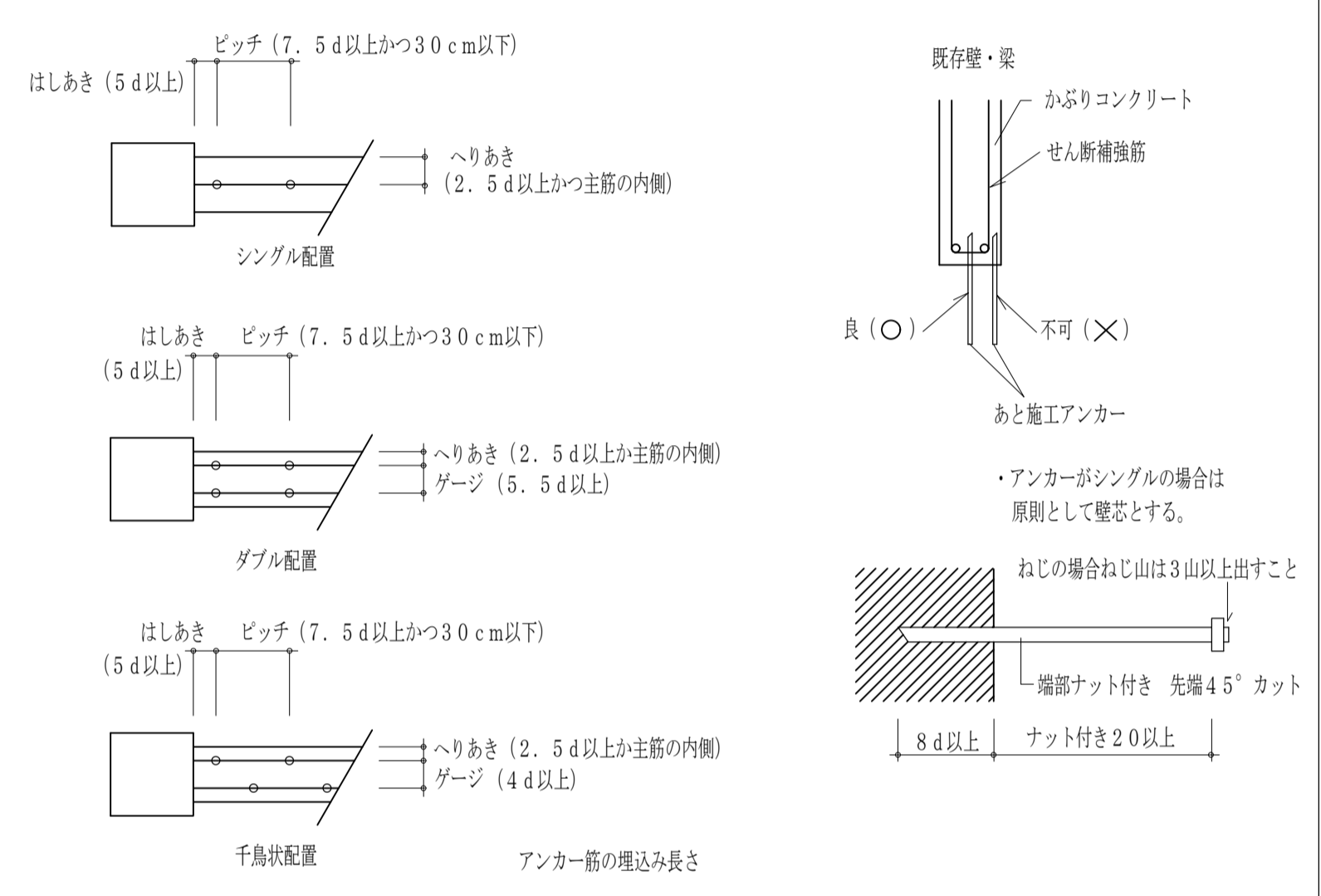
施工確認試験 ※打音確認(全数)
 ※引張試験(標準仕様書 8.11.5(1)~(5)による。)

引張試験本数 各技能者が、1日に施工したものの径ごとに3本

確認強度

径	確認張力 (kN)
D16	
D19	
D22	

接着系アンカーの配筋要領図



	枠付きプレース部			現場打ちRC増設壁		
	D16	D19	D22			
アンカー径						
埋込み長さ				構造図による		
穿孔径						

(2) 溶接接合

※ 開先形状は、(社)日本建築学会「建築工事標準仕様書6 鉄骨工事(JASS6)付則5 「完全溶込み溶接・部分溶け込み溶接の開先標準」による。

鉄骨製工場認定グレード ・ S ・ H ※ M ・ R
 施工管理技術者 ※適用する ・適用しない
 溶接技能者 技量付加試験 ・行う ※行わない
 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※行う ・行わない

	検 査 率	
	社 内	第 三 者
工場溶接	100%	100%
現場溶接	100%	100%

(3) 高力ボルト

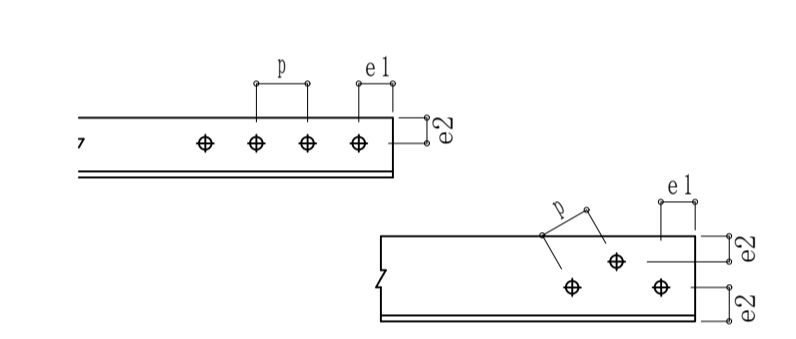
施工管理技術者 建築高力ボルト接合管理者 ((社)日本鋼構造協会)

すべり係数試験 ・要 ○不要

締め付け確認 標準仕様書(8.13.8, 8.13.9) JASS6による

※ 摩擦面のすべり係数を0.45以上確保できるよう、標準仕様書8.13.2による処理を行うこと。ただし、溶融亜鉛めっき高力ボルトの場合は「建築改修工事監理指針(国土交通大臣官庁官庁官庁官庁)」に基づき施工すること。なお、リン酸塩処理等を行う場合は、すべり耐力試験を行いすべり係数が0.4以上あることを確認すること。

ボルトのピッチ及びエッジ標準



(4) 鉄骨の工事現場施工

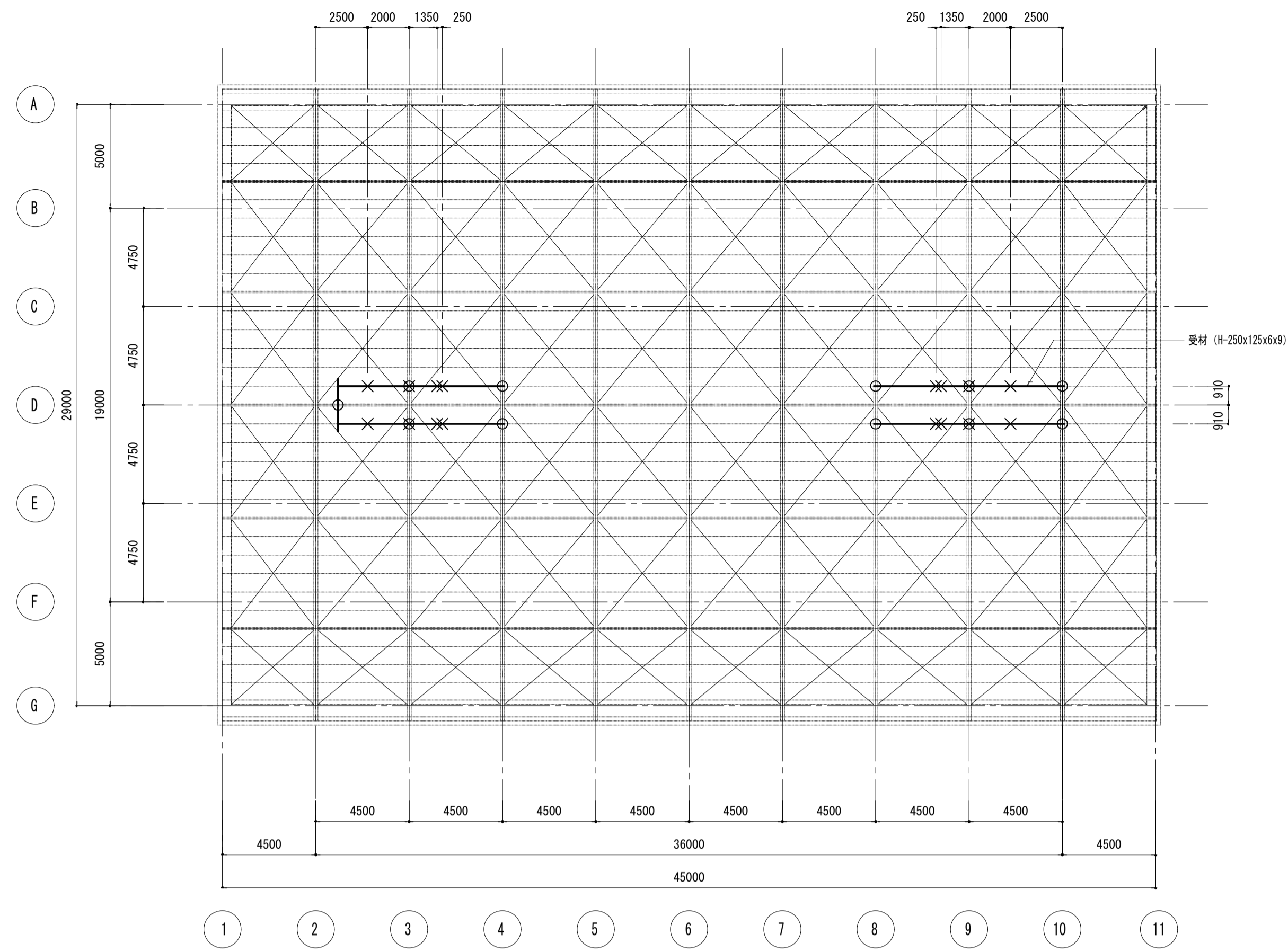
現場組立 標準仕様書(8.18.3)による。

(5) 既設コンクリートの表面処理

目荒らしの程度 平均深さ 2~5mm (最大で5~7mm)程度の凹面
 柱・梁部分 打継ぎ面の15~30%程度の面積
 壁 打継ぎ面の10~15%程度の面積

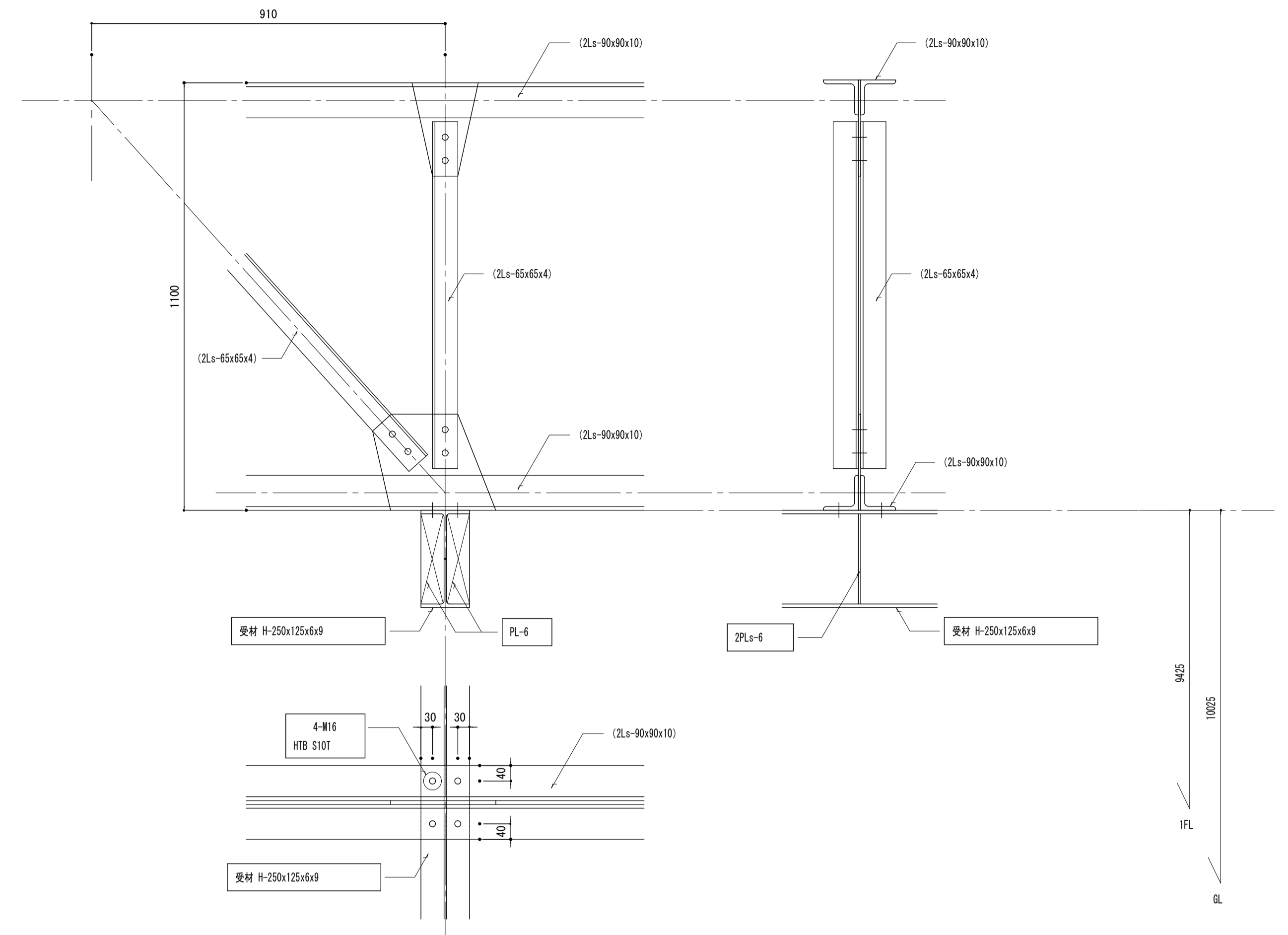
記 事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担 当	業務名	検 図	担 当	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館等非構造部材耐震設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年7月	14/15
						株式会社 線企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
									改修工事標準図		S-01

※A3版の場合は50%縮尺とする



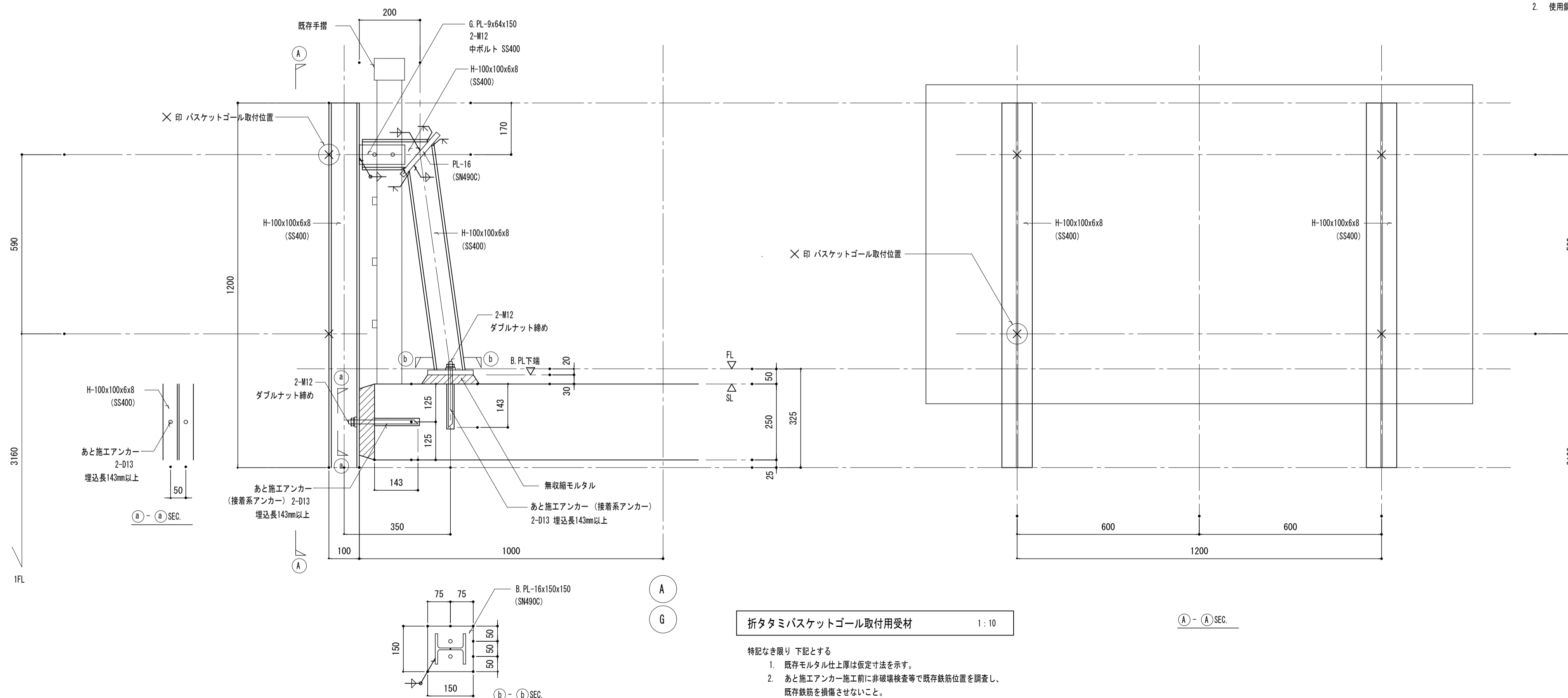
吊下式 バasketゴール取付用受材位置図 1: 200

- 特記なき限り 下記とする
1. 印は受材 (H-250x125x6x9) 位置を示す。
 2. ×印はBasketゴール取付位置を示す。
 3. ○印は既存取付部 (HTB 4-M16)



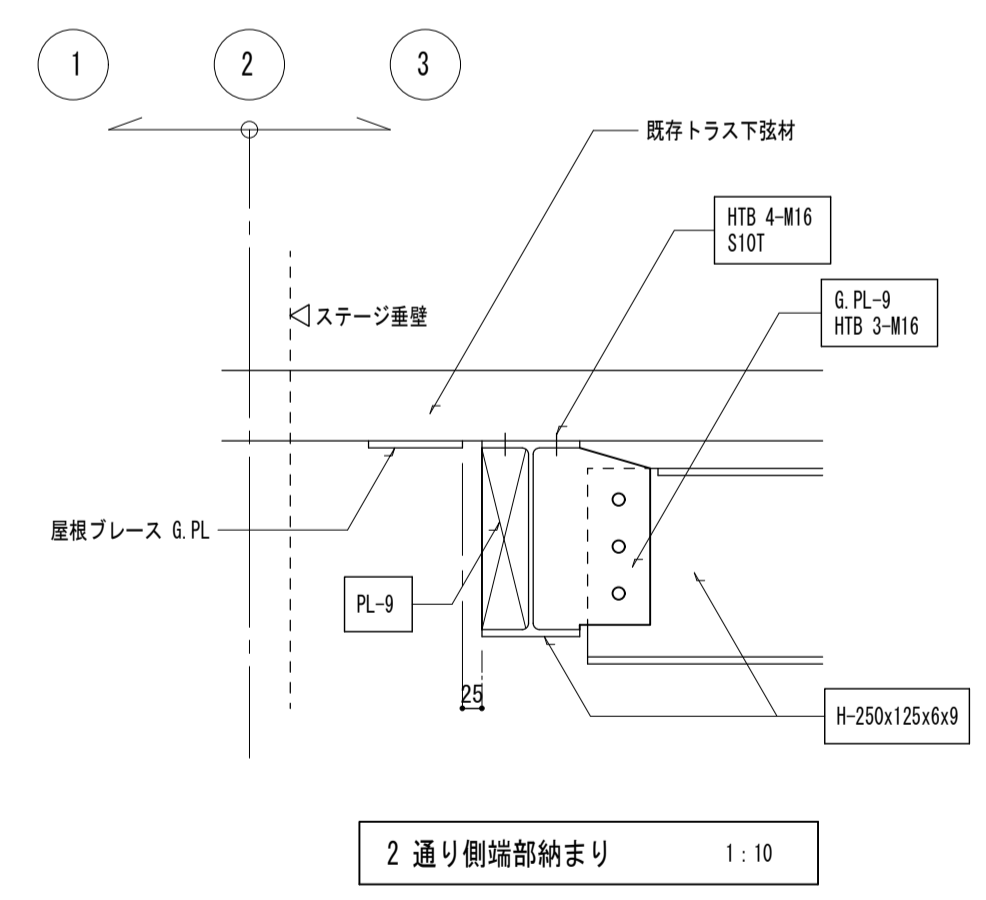
吊下式 バasketゴール取付用受材 1: 10

- 特記なき限り 下記とする
1. () 付き部材は既存部材を示す。
 2. 使用部材 SS400とする。



折タミBasketゴール取付用受材 1: 10

- 特記なき限り 下記とする
1. 既存モルタル上層は指定寸法を示す。
 2. あと施工アンカー施工前に非破壊検査等で既存鉄筋位置を調査し、既存鉄筋を損傷させないこと。



2通り側端部納まり 1: 10

記 事	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担 当	業務名	検 図	担 当	工事名称	日付	総数
						鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震・補強設計業務			鈴鹿工業高専第1体育館非構造部材耐震改修その他工事	平成27年7月	15 / 15
						株式会社 線企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
									バスケットゴール取付用受材詳細図		S-02

※A3版の場合は50%縮尺とする